Pioneer

DJミキサー

DJM-900SRT

DJM-900SRT Serato DJ Edition

serato | serato DJ

ご相談窓口・修理窓口のご案内

お取り扱いにお困りのとき、本書の巻末をご覧ください。

http://pioneerdj.com/support/

上記のPioneerDJサポートサイトでは、困ったときのよくある質問やソフトウェアの情報など、より快適に製品をお使いいただくための各種情報やサービスを提供しております。

http://rekordbox.com/

rekordbox™の各種情報やサービスについては、上記の弊社ホームページをご覧ください。

http://serato.com/

最新版のSerato DJ ソフトウェアはSerato.com にアクセスしてダウンロードしてください。

取扱説明書

もくじ

本機を使って、Serato DJ を初めて操作するかたへ
「CONTROL CD」または「CONTROL VINYL」を使って Serato DJ を操作するための初期設定手順は、「クイックスタートガイド Serato DJ 編」をご覧ください。「クイックスタートガイド Serato DJ 編」は Pioneer DJ サポートサイト (http://pioneerdj.com/support/) からダウンロードできます。ダウンロード方法は、本書の「最新版の取扱説明書 / クイックスタートガイド Serato DJ 編をダウンロードする」(p.27) をご覧ください。

CONTROL VINYL ご利用のかたへ
CONTROL VINYL をご利用の場合は、Serato DJ の取扱店または Serato 社などのオンラインショップをご利用ください (http://serato.com/)。

本書の見かた
このたびは、パイオニア製品をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
この冊子と「クイックスタートガイド Serato DJ 編」はどちらも必ずお読みください。両方とも、この製品の使用前にご理解いただくべき重要事項が含まれています。
Serato DJ のソフトウェアマニュアルの入手方法については、「マニュアルを入手する」(p.27) をご覧ください。

本書は、本機のハードウェアとしての機能を中心に説明が構成されています。詳しい Serato DJ ソフトウェアの操作については、Serato DJ のソフトウェアマニュアルおよび「クイックスタートガイド Serato DJ 編」をご覧ください。
- Serato DJ のソフトウェアマニュアルは、「Serato.com」からダウンロードできます。詳細については、「Serato DJ のソフトウェアマニュアルをダウンロードする」(p.27) をご覧ください。
- 最新版の取扱説明書 (本書) および「クイックスタートガイド Serato DJ 編」は、Pioneer サポートサイトからダウンロードできます。詳細については、「最新版の取扱説明書 / クイックスタートガイド Serato DJ 編をダウンロードする」(p.27) をご覧ください。

- 本書では、製品本体に表示されているチャンネル名、ボタン名、およびソフトウェア上のメニュー名などを、[ ] で囲んで記載しています。(例 : [**MASTER**] チャンネル、[**ON**/**OFF**]、[**File**] メニュー)
- 本書で説明しているソフトウェアの画面と仕様およびハードウェアの外観と仕様は、開発途中のものであり、最終仕様と異なる場合がありますがご了承ください。
- 本書で説明している手順については、OS のバージョン、ウェブブラウザの設定などにより記載の動作と異なる場合がありますがご了承ください。

01 安全上のご注意
警告 3
注意 3
設置場所について 4
製品のお手入れについて 4

02 はじめに
本機の特長 5
付属品を確認する 5

03 ソフトウェアをインストールする
ドライバソフトウェアをインストールする 6
Serato DJ ソフトウェアをインストールする 7

04 接続する
本体背面部 9
入力端子に接続する 10
出力端子に接続する 10
操作パネルに接続する 11
本機とコンピューターを接続する 11

05 操作する
操作パネル 12
基本操作 13
応用操作 14

06 エフェクトの種類
SOUND COLOR FX の種類 18
BEAT EFFECT の種類 18

07 MIDI アサインマップ
MIDI アサインマップ 21

08 設定を変更する
オートスタンバイ機能について 23
トークオーバー機能について 23
設定項目一覧 23
設定ユーティリティについて 24
ドライバソフトウェアの最新情報を確認する 24

09 その他
故障かな？と思ったら 25
ブロックダイヤグラム 26
マニュアルを入手する 27
保証とアフターサービス 27
商標および登録商標について 27
仕様 28

安全上のご注意

- 安全にお使いいただくために、必ずお守りください。
- ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

この取扱説明書および製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠ 記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠ 警告

異常時の処置

万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置

接地接続は必ず、主電源プラグを主電源につなぐ前に行ってください。また、接地接続を外す場合は、必ず主電源プラグを主電源から切り離してから行ってください。

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

電源コードの上に重い物を載せたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物を載せてしまうことがあります。

放熱をよくするため他の機器、壁等から間隔をとり、ラックなどに入れるときはすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- あおむけや横倒し、逆さまにする。
- 押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
- じゅうたんやふとんの上に置く。
- テーブルクロスなどをかける。

着脱式の電源コード（インレットタイプ）が付属している場合のご注意：付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱により火災・感電の原因となることがあります。

使用環境

本機に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

風呂場、シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

表示された電源電圧（交流 100 ボルト、50 Hz/60 Hz）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流 (DC) 電源には接続しないでください。火災の原因となります。

本機の使用環境温度範囲は 5 ℃～ 35 ℃、使用環境湿度は 85 % 以下（通風孔が妨げられていないこと）です。風通しの悪い所や湿度が高すぎる場所、直射日光（または人工の強い光）の当たる場所に設置しないでください。

使用方法

本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

ぬれた手で（電源）プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）、販売店に交換をご依頼ください。

雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⚠ 注意

設置

本機を設置する場合には、壁から 5 cm 以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して設置してください。ラックなどに入れるときは、本機の背面から 5 cm 以上、側面から 3 cm 以上のすき間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

本機の上に火がついたろうそくなどの裸火を置かないでください。火災の原因となります。

使用方法

ディスクを使用する機器の場合、ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散ってけがの原因となることがあります。

音が歪んだ状態で長時間使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、壊れたりしてけがの原因になることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

旅行などで長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

保守・点検

５年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

設置場所について

- 熱を発生するアンプなどの上に直接置いたり、スポットライトなどの近くで長時間使用すると、本体に悪い影響を与えますので、おやめください。
- チューナーやテレビから離して設置してください。近くに置いた場合は、雑音や映像の乱れが生じることがあります。なお、雑音や映像の乱れは室内アンテナをご使用の場合に起こりやすく、このようなときは、屋外アンテナを使用するか、本機の電源を切ってください。

製品のお手入れについて

通常は、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどい場合は水で５～６倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞ったあと、汚れを拭き取り、そのあと乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、ゴムやビニール製品を長時間触れさせることも、キャビネットを傷めますので避けてください。化学ぞうきんなどをお使いの場合は、化学ぞうきんなどに添付の注意事項をよくお読みください。
お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞にはとくに気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉めたり、ヘッドホンで聞くのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

K021_A1_Ja

愛情点検

長年ご使用のAV機器の点検を!

このような症状はありませんか	・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。 ・電源コードにさけめやひび割れがある。 ・電源が入ったり切れたりする。 ・本体から異常な音、熱、臭いがする。	➡	ご使用中止	故障や事故防止のため、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

K026_A_Ja

はじめに

本機の特長

本機は、Serato 社製 DJ ソフトウェア「Serato DJ」を使った DJ プレイのために、最適に設計された 4 チャンネルミキサーです。Serato DJ に対応したサウンドカードを内蔵しているので、USB ケーブル 1 本でコンピューターと接続し、面倒な設定をすることなく、すぐに「Serato DJ」を使った演奏を始められます。
さらに、CONTROL VINYL(レコード) または CONTROL CD を用いて「Serato DJ」のスクラッチ機能をコントロールできます。
また、世界中のクラブの標準機となっているパイオニア DJM-900nexus の主な機能、品質 / 性能を継承しており、クラブシーンで活躍するすべてのプロ DJ のパフォーマンスを強力にサポートします。

PLUG AND PLAY

本機はコンピューターを接続するための USB サウンドカードを内蔵しています。本機のほかに外付けのサウンドカードを用意することなく、USB ケーブル 1 本でコンピューターと接続できます。
また、Serato DJ を起動すると本機は自動的にサウンドデバイスとして選択されるので、面倒な設定をすることなく、すぐに「Serato DJ」を使った DJ プレイを始められます。
さらに、CONTROL VINYL(レコード) または CONTROL CD を用いて「Serato DJ」のスクラッチ機能をコントロールできます。

HIGH SOUND QUALITY

32 bit D/A コンバーターなど高級オーディオと同等のパーツを採用することにより、マスター出力だけでなく、ヘッドホンやブース出力の音質まで大幅に向上しています。また、32 bit デジタル・シグナル・プロセッサーの採用によりデジタルノイズを抑制しています。さらに、アナログ回路でも、高音質バランスドハイブリッドオペアンプおよび完全バランス出力回路を採用しノイズを低減しています。

SOUND COLOR FX & BEAT FX

DJM シリーズで好評な SOUND COLOR FX と BEAT FX を搭載しています。「SOUND COLOR FX」はノブを回すだけでイメージどおりの効果を得ることができ、楽曲にオリジナルアレンジを加えるなど、多彩なリミックスが可能です。また、Serato DJ で再生中の楽曲の BPM 情報と拍位置情報を USB 経由で取得することができます。精度の高い BPM 情報によりビートに対しずれることなく「BEAT EFFECT」をかけることができます。また、クオンタイズモードを使うことにより「BEAT EFFECT」操作のタイミングがずれた時でも自動的に補正されるので、ビートに合わせてエフェクトをかけることができます。

DURABLE FADER

フェーダーノブを 2 本の金属シャフトで支持するスライド構造をクロスフェーダーとチャンネルフェーダーに採用しています。ぐらつきのないスムーズな操作を実現するとともに、高い耐久性を実現しました。また、液体や粉塵によるフェーダー内部への影響も最小限に抑えています。クロスフェーダーにはスクラッチプレイに対応するため、独自開発の磁気方式を採用し、操作可能回数 1 000 万回以上の高い耐久性と細かな操作性を実現しました。チャンネルフェーダーでは、当社従来機種 (DJM-800) に比べて約 3 倍の操作耐久性を実現しました。

STANDARD LAYOUT

DJ ミキサーの世界標準であるパイオニア DJM シリーズの操作パネルレイアウトを継承しています。
シンプルでわかりやすい操作パネルレイアウトは、DJ パフォーマンスしやすいだけでなく初めて使う DJ も迷わず操作できるので、クラブ常設機器として安心してお使いいただけます。

付属品を確認する

- CD-ROM (インストールディスク)
- USB ケーブル
- 電源コード
- 保証書
- 取扱説明書 (本書)
- Serato DJ CONTROL CD × 2

ソフトウェアをインストールする

ドライバソフトウェアをインストールする

本ドライバソフトウェアは、コンピューターからの音声を入力 / 出力するための専用ドライバソフトウェアです。本機を Windows または Mac OS がインストールされているコンピューターに接続してお使いになるときは、あらかじめコンピューターにドライバソフトウェアをインストールしてください。

ソフトウェア使用許諾契約書

このソフトウェア使用許諾契約書 (以下「本契約」といいます) は、お客様とパイオニア株式会社 (以下「当社」といいます) との間における、DJ 機器用ソフトウェア (以下「本ソフトウェア」といいます) の使用に関する事項を定めるものです。本ソフトウェアをインストールし、あるいはご利用になるにあたっては、必ず以下の条項をよくお読み下さい。お客様が本ソフトウェアをご利用になった場合は、本契約に同意されたものとします。もし本契約に同意されない場合には、本ソフトウェアのインストール及びご利用をおやめ下さい。

(使用許諾)
本契約の内容に従うことを条件として、お客様は、本ソフトウェアを一台のパーソナル・コンピュータ又は携帯端末にインストールして使用することができます。

(制限事項)
お客様は、本ソフトウェアの複製物を作成しあるいは配布し、またはネットワークを通じあるいは一台のコンピュータから別のコンピュータに送信してはなりません。また、お客様は、本ソフトウェアの改変、販売、貸与、譲渡、転売、本ソフトウェアの二次的著作物の頒布又は作成等をすることはできず、さらに、逆コンパイル、リバース・エンジニアリング、逆アセンブルし、その他、人間の覚知可能な形態に変更することもできません。

(著作権等)
本ソフトウェアに関する著作権その他一切の知的財産権は、当社あるいはその関連会社に帰属します。本ソフトウェアは、著作権法及び国際条約の規定により保護されています。

(保証及び技術サポートの否認)
本ソフトウェア及びそれに付随する一切の資料等は、あくまで「現状のまま」提供されます。当社は、お客様や第三者に対して、これらの商品性、特定目的への適合性、他人の権利を侵害しないこと、その他一切の事項について保証せず、また、これらに対する技術サポートを行うこと等も保証しません。なお、国や地域によっては強行法規によってかかる保証の否認が認められないことがありますので、その場合には、かかる保証の否認は適用されないことがあります。また、お客様の権利は、国や地域によっても異なり得ます。

(責任制限)
当社、その他本ソフトウェアの供給者は、お客様が本ソフトウェア及びこれに付随する一切の資料を使用したこと又は使用できなかったことから生じる一切の損害 (利益の逸失、ビジネスの中断、情報の消失・毀損などによる損害を含みますが、これらに限定されません) に関しては、たとえ当社が、そのような損害が生じる可能性を知らされていた場合であったとしても、一切責任を負いません。国や地域によっては強行法規によって付随的又は間接損害に対する責任の制限が認められないことがありますので、その場合には、かかる責任制限は適用されないことがあります。なお、いかなる場合においても、本ソフトウェアに関する当社またはその子会社の責任は、お客様が当社またはその子会社に対して支払った金額を超えないものとします。かかる保証の否認や責任制限は、お客様と当社との間の取り決めにおける基本的な要素です。

(輸出規制法令の遵守)
お客様は、アメリカ合衆国の法令及び本ソフトウェアを取得された国の法令が認めている場合を除き、本ソフトウェアを使用または輸出もしくは再輸出することはできません。また、本ソフトウェアを、次のいずれの者に対しても、輸出または再輸出することはできません。
(a) アメリカ合衆国の通商禁止国
(b) アメリカ合衆国財務省の禁止顧客リスト (Specially Designated Nationals List) 上の一切の者、及びアメリカ合衆国商務省の禁止顧客リスト (Denied Person's List or Entity List) 上の一切の者
お客様は、本ソフトウェアを使用することにより、上記 (a) に該当する国に居住しておらず、また、上記 (b) のリストに掲載されていないことを表明および保証するものとします。また、お客様は、本ソフトウェアをアメリカ合衆国の法令にて禁止されるいかなる目的 (核兵器、ミサイル、化学兵器、または細菌兵器を含みますが、これに限定されません) にも使用しないことに同意されたものとします。

(準拠法)
本契約は、日本国の法令に準拠し、これに基づいて解釈されるものとします。本契約は、本ソフトウェアの使用について、お客様と当社の取り決めのすべてを記載するものであり、本件に関する従前のあらゆる合意 (それが口頭でなされたか文書によりなされたかを問いません) に優先して適用されます。本契約に関連して紛争が生じた場合は、東京地方裁判所を第一審の専属管轄裁判所とします。

インストールについてのご注意

- ドライバソフトウェアをインストールする前に、本機の電源スイッチを切り、本機とコンピューターを接続している USB ケーブルを取り外してください。
- ドライバソフトウェアをコンピューターにインストールしないで本機をコンピューターに接続すると、お客様の環境によってはコンピューターにエラーが発生することがあります。
- ドライバソフトウェアのインストールを途中で中止したときは、以下の手順に沿ってはじめからインストールをやり直してください。
- 本機の専用ドライバソフトウェアをインストールする前に、「ソフトウェア使用許諾契約書」をよくお読みください。
- ドライバソフトウェアをインストールする前に、コンピューター上で他に作業中のプログラムがあれば、すべて終了させてください。
- ドライバソフトウェアは以下の OS に対応しています。

対応 OS		
Mac OS X 10.6 / 10.7 / 10.8		○
Windows® 8/Windows® 8 Pro	32 ビット版	○
	64 ビット版	○
Windows® 7 Home Premium/Professional/Ultimate	32 ビット版	○
	64 ビット版	○
Windows Vista® Home Basic/Home Premium/Business/Ultimate	32 ビット版	○
	64 ビット版	○
Windows® XP Home Edition/Professional (SP3 以降)	32 ビット版	○

Windows® XP Professional x64 Edition には対応していません。

- 付属の CD-ROM には、以下の 12 言語のインストールプログラムが収録されています。
  英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、オランダ語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、簡体中国語、繁体中国語、韓国語、日本語
  その他の言語の OS でお使いになるときは、画面の指示に従って [**English** (英語)] を選んでください。

インストール手順 (Windows)

ドライバソフトウェアをインストールする前に「インストールについてのご注意」をよくお読みください。

- ドライバソフトウェアをインストール、アンインストールするには、コンピューターの管理者権限が必要です。コンピューターの管理者に設定されているユーザーでログオンしてからインストールしてください。

1 付属の CD-ROM をコンピューターの CD ドライブに挿入する

CD-ROM のメニューが表示されます。

- CD-ROM を挿入しても CD-ROM のメニューが表示されないときは、[**スタート**] メニューの [**コンピューター** (または **マイコンピュータ**)] から CD ドライブをダブルクリックしてください。

2 表示されたメニューから [ドライバソフトウェアをインストールする] を選んで [開始] をクリックする

3「最新版をダウンロードしますか？接続にはインターネット環境が必要です。」が表示されるので、[はい] をクリックする

ウェブブラウザが起動し、Pioneer DJ サポートサイトが表示されます。

4 Pioneer DJ サポートサイトで [DJM-900SRT] の [ソフトウェアダウンロード] をクリックする

5 [ドライバソフトウェア] をクリックする

6 ダウンロードページの中から Windows 用のドライバソフトウェア (DJM-900SRT_X.XXX.exe) をダウンロードする

7 ダウンロードしたファイルをダブルクリックする

ドライバのインストール画面が表示されます。

8「ソフトウェア使用許諾契約書」をよく読み、「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意するときは、[同意する] にチェックを入れてから [OK] をクリックする

「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意いただけないときは、[**キャンセル**] をクリックして、インストールを中止してください。

9 画面の指示に従ってインストールする

インストールの途中で [**Windows セキュリティ**] 画面が表示されることがありますが、[**このドライバソフトウェアをインストールします**] をクリックしてインストールを続行してください。

- Windows XP にインストールしているとき
  インストールの途中で [**ハードウェアのインストール**] 画面が表示されることがありますが、[**続行**] をクリックしてインストールを続行してください。
- インストールプログラムが終了すると終了メッセージが表示されます。

インストール手順 (Mac OS X)

ドライバソフトウェアをインストールする前に「インストールについてのご注意」をよくお読みください。
- ドライバソフトウェアをインストール、アンインストールするには、コンピューターの管理者権限が必要です。コンピューターの管理者の「名前」と「パスワード」をあらかじめご用意ください。

1 付属のCD-ROMをコンピューターのCDドライブに挿入する
CD-ROM のフォルダが表示されます。
- CD-ROM を挿入しても CD-ROM のフォルダが表示されないときは、デスクトップ上の CD アイコンをダブルクリックしてください。

2 [CD_menu.app] をダブルクリックする

3 表示されたメニューから [ドライバソフトウェアをインストールする] を選んで [開始] をクリックする

4「最新版をダウンロードしますか？接続にはインターネット環境が必要です。」が表示されるので、[はい] をクリックする
ウェブブラウザが起動し、Pioneer DJ サポートサイトが表示されます。

5 Pioneer DJ サポートサイトで [DJM-900SRT] の [ソフトウェアダウンロード] をクリックする

6 [ドライバソフトウェア] をクリックする

7 ダウンロードページの中から Mac OS 用のドライバソフトウェア (DJM-900SRT_M_X.X.X.dmg) をダウンロードする

8 ダウンロードしたファイルをダブルクリックする
[**DJM-900SRT_AudioDriver**] のメニュー画面が表示されます。

9 [DJM-900SRT_AudioDriver.pkg] をダブルクリックする
ドライバのインストール画面が表示されます。

10画面の内容を確認して [続ける] をクリックする

11使用許諾契約画面が表示されたら、「ソフトウェア使用許諾契約書」をよく読み、[続行する] をクリックする

12「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意するときは、[同意する] をクリックする
「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意いただけないときは、[**同意しない**] をクリックして、インストールを中止してください。

13画面の指示に従ってインストールする
- インストールを途中で中止するときは [**キャンセル**] をクリックしてください。

Serato DJ ソフトウェアをインストールする

Serato DJ は Serato 社製の DJ ソフトウェアです。このソフトウェアをインストールしたコンピューターと本機を接続して DJ プレイを楽しむことができます。

「CONTROL CD」または「CONTROL VINYL」を使って Serato DJ を操作するための初期設定手順は、「クイックスタートガイド Serato DJ 編」をご覧ください。「クイックスタートガイド Serato DJ 編」は Pioneer DJ サポートサイト (http://pioneerdj.com/support/) からダウンロードできます。ダウンロード方法は、本書の「最新版の取扱説明書 / クイックスタートガイド Serato DJ 編をダウンロードする」(p.27) をご覧ください。

最新版の Serato DJ ソフトウェアは Serato.com にアクセスしてダウンロードしてください。付属の CD-ROM にも、ソフトウェアのダウンロードリンクが収録されています。
本書で説明しているソフトウェアの画面と仕様は開発途中のものであり、最終仕様と異なる場合がありますがご了承ください。
Serato DJ ソフトウェアの操作については、Serato DJ のソフトウェアマニュアルをご覧ください。
- Serato DJ のソフトウェアマニュアルは、「Serato.com」からダウンロードできます。詳細については、「Serato DJ のソフトウェアマニュアルをダウンロードする」(p.27) をご覧ください。

最低動作環境

対応 OS		CPU および必要メモリー
Mac OS X:10.6.8、10.7.4、10.8	32ビット版	Intel® プロセッサ、Core™ 2 Duo 2.0 GHz 以上
		1 GB 以上の RAM
	64ビット版	Intel® プロセッサ、Core™ 2 Duo 2.4 GHz 以上
		4 GB 以上の RAM
Windows: Windows 7	32ビット版	Intel® プロセッサ、Core™ 2 Duo 2.0 GHz 以上
		2 GB 以上の RAM
	64ビット版	Intel® プロセッサ、Core™ 2 Duo 2.4 GHz 以上
		4 GB 以上の RAM

その他	
USB ポート	コンピューターと本機を接続するために USB2.0 ポートが必要です。
ディスプレイ解像度	1 280 x 720 以上の解像度
インターネット接続	「Serato.com」のユーザーアカウントの登録やソフトウェアのダウンロードのため、インターネット接続環境が必要です。

- 最新の動作環境、互換性、および最新の OS システムを取得するには、下記の Pioneer DJ サポートサイトの「**DJM-900SRT**」の「**ソフトウェア対応情報**」を参照してください。
http://pioneerdj.com/support/
- 記載の動作環境を満たしているすべてのコンピューターにおける動作を保証するものではありません。
- コンピューターの省電力設定などの状態によっては、CPU やハードディスクの処理能力を十分に発揮できないことがあります。特にノート型コンピューターをお使いのときは、AC 電源を接続するなどして、常に高パフォーマンス状態のセッティングで Serato DJ をお使いください。
- インターネットをお使いになるときは、インターネットサービスを提供しているプロバイダーとの契約・料金が別途必要です。

インストール手順 (Windows)

インストールが完了するまでは、本機とコンピューターを接続しないでください。

- コンピューターの管理者に設定されているユーザーでログイン (またはログオン) してからインストールしてください。
- コンピューター上で他に作業中のプログラムがあればすべて終了させてください。

1 CD-ROM をコンピューターの CD ドライブに挿入する
CD-ROM のメニューが表示されます。
- CD-ROM を挿入しても CD-ROM のメニューが表示されないときは、[**スタート**] メニューの [**コンピューター** (または**マイコンピュータ**)] から CD ドライブを開き [**CD_menu.exe**] のアイコンをダブルクリックしてください。

2 CD-ROM のメニューが表示されたら、[Serato DJ をダウンロードする] を選んで [開始] をクリックする
CD-ROM のメニューを終了させるときは、[**終了**] をクリックしてください。

3「接続にはインターネット環境が必要です。インターネットに接続しますか？」が表示されるので、[はい] をクリックする
ウェブブラウザが起動し、Pioneer DJ サポートサイトが表示されます。

4 Pioneer DJ サポートサイトで [DJM-900SRT] の [ソフトウェア対応情報] をクリックする
[**サポート情報**] が表示されます。

5 Serato DJ のダウンロードページへのリンクをクリックする
Serato DJ のダウンロードページが表示されます。

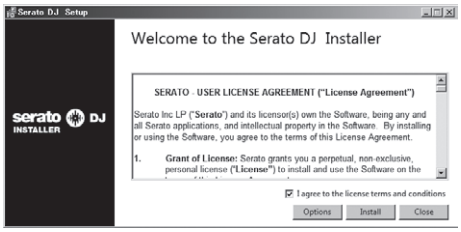
6「Serato.com」のユーザーアカウントでログインする
- すでに「Serato.com」のユーザーアカウントを登録されているお客様は手順 8 にお進みください。
- ユーザーアカウントの登録が完了していないお客様は、以下の操作をしてユーザーアカウントの登録を行ってください。
  - 画面の指示に従って、E-mail アドレス、設定したいパスワードを入力し、お住まいの地域を選択してください。
  - [**E-mail me Serato newsletters**] にチェックを入れると、Serato 社からのニュースレターが送信され、Serato 社製品の最新情報を入手できます。
  - ユーザーアカウント登録が完了すると、入力した E-mail アドレスに E-mail が送信されますので、「Serato.com」から送信された E-mail の内容を確認してください。
- ユーザー登録の際にご指定いただきましたお客様の E-mail アドレスとパスワードは、お忘れにならないように十分ご注意ください。ソフトウェアのアップデートをするときに必要になります。
- 新規ユーザーアカウントの登録時に入力する個人情報は、Serato 社ウェブサイトの個人情報保護方針に基づき、収集、処理、使用されます。

7「Serato.com」から送信された E-mail に記載されているリンク先をクリックする
Serato DJ のダウンロードページに進みます。手順 9 にお進みください。

8 ログインする
登録した E-mail アドレスおよびパスワードを入力し、「Serato.com」にログインします。

9 ダウンロードページから、Serato DJ ソフトウェアをダウンロードする
ダウンロードしたファイルを解凍し、解凍したファイルをダブルクリックするとインストーラーが起動します。

10 使用許諾契約の内容をよく読み、同意する場合は [I agree to the license terms and conditions] を選択し、[Install] をクリックする

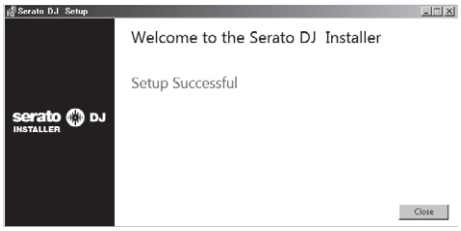


- 使用許諾契約の内容に同意しないときは [**Close**] をクリックしてインストールを中止してください。

インストールが始まります。

インストールが完了すると、インストール完了画面が表示されます。

11 [Close] をクリックして Serato DJ インストーラーを終了させる



インストール手順 (Mac OS X)

インストールが完了するまでは、本機とコンピューターを接続しないでください。

- コンピューター上で他に作業中のプログラムがあればすべて終了させてください。

1 CD-ROM をコンピューターの CD ドライブに挿入する

CD-ROM のメニューが表示されます。

- CD-ROM を挿入しても CD-ROM のフォルダが表示されないときは、デスクトップ上の CD アイコンをダブルクリックしてください。

2 [CD_menu.app] をダブルクリックする

3 CD-ROM のメニューの [Serato DJ をダウンロードする] を選んで [開始] をクリックする

4「接続にはインターネット環境が必要です。インターネットに接続しますか？」が表示されるので、[はい] をクリックする

ウェブブラウザが起動し、Pioneer DJ サポートサイトが表示されます。

5 Pioneer DJ サポートサイトで [DJM-900SRT] の [ソフトウェア対応情報] をクリックする

[**サポート情報**] が表示されます。

6 Serato DJ のダウンロードページへのリンクをクリックする

Serato DJ のダウンロードページが表示されます。

7「Serato.com」のユーザーアカウントでログインする

- すでに「Serato.com」のユーザーアカウントを登録されているお客様は手順 8 にお進みください。
- ユーザーアカウントの登録が完了していないお客様は、以下の操作をしてユーザーアカウントの登録を行ってください。
  - 画面の指示に従って、E-mail アドレス、設定したいパスワードを入力し、お住まいの地域を選択してください。
  - [**E-mail me Serato newsletters**] にチェックを入れると、Serato 社からのニュースレターが送信され、Serato 社製品の最新情報を入手できます。
  - ユーザーアカウント登録が完了すると、入力した E-mail アドレスに E-mail が送信されますので、「Serato.com」から送信された E-mail の内容を確認してください。
- ユーザー登録の際にご指定いただきましたお客様の E-mail アドレスとパスワードは、お忘れにならないように十分ご注意ください。ソフトウェアのアップデートをするときに必要になります。
- 新規ユーザーアカウントの登録時に入力する個人情報は、Serato 社ウェブサイトの個人情報保護方針に基づき、収集、処理、使用されます。

8「Serato.com」から送信された E-mail に記載されているリンク先をクリックする

Serato DJ のダウンロードページに進みます。手順 9 にお進みください。

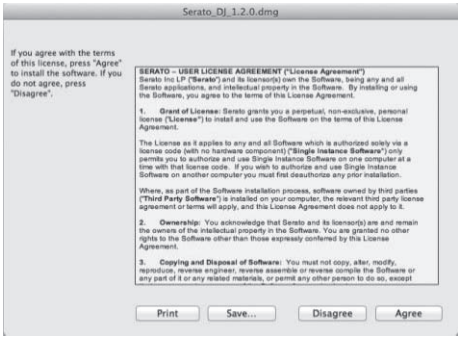
9 ログインする

登録した E-mail アドレスおよびパスワードを入力し、「Serato.com」にログインします。

10 ダウンロードページから、Serato DJ ソフトウェアをダウンロードする

ダウンロードしたファイルを解凍し、解凍したファイルをダブルクリックするとインストーラーが起動します。

11 使用許諾契約の内容をよく読み、同意する場合は [Agree] をクリックする



- 使用許諾契約の内容に同意しないときは [**Disagree**] をクリックしてインストールを中止してください。

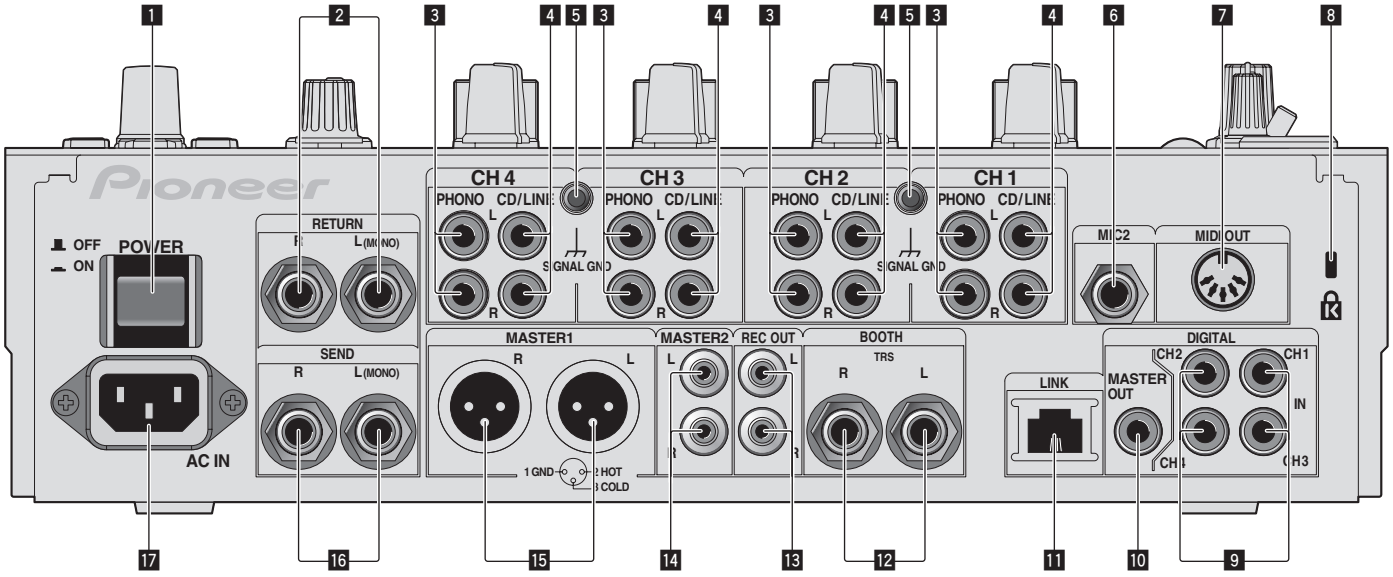
12 下記の画面が表示されたら、[Serato DJ] アイコンを [Applications] フォルダアイコンにドラッグアンドドロップする

接続する

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
電源コードは、機器の接続がすべて終わってから接続してください。
必ず付属の電源コードをお使いください。
接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

- コンピューターやオーディオインターフェースなどと組み合わせて DVS(Digital Vinyl System) を構築するときは、オーディオインターフェースと本機の入力端子の接続および入力切換スイッチの設定にご注意ください。
  ＤＪソフトウェアおよびオーディオインターフェースの取扱説明書もあわせてご覧ください。

本体背面部



1 POWER ボタン (13ページ)
本機の電源をオン / オフします。

2 RETURN 端子 (10ページ)
外部エフェクターの出力端子と接続します。[**L (MONO)**] だけに接続すると、[**L (MONO)**] に入力される音声が [**R**] にも入力されます。

3 PHONO 端子 (10ページ)
フォノレベル (MM カートリッジ用) の出力機器と接続します。ラインレベルの信号を入力しないでください。
[**PHONO**] 端子に機器を接続するときは、端子に差し込まれているショートピンプラグを取り外してください。
このショートピンプラグは、[**PHONO**] 端子に何も接続しないとき外部ノイズをカットするために差し込んで使います。

4 CD/LINE 端子 (10ページ)
DJ プレーヤーやラインレベルの出力機器と接続します。

5 SIGNAL GND 端子 (10ページ)
アナログプレーヤーのアース線と接続します。アナログプレーヤー接続時の雑音低減を図ります。

6 MIC2 端子 (10ページ)
マイクを接続します。

7 MIDI OUT 端子 (10ページ)
外部 MIDI シーケンサーの MIDI IN 端子と接続します。

8 ケンジントンロック装着用穴

9 DIGITAL IN 端子 (10ページ)
DJ プレーヤーなどのデジタル同軸出力端子と接続します。出力信号のサンプリング周波数が切り換わったときに、音声が一瞬とぎれることがあります。

10 DIGITAL MASTER OUT 端子 (10ページ)
マスターチャンネルの音声を出力します。

11 LINK 端子 (10ページ)
パイオニア製 DJ プレーヤーの LINK 端子、または rekordbox がインストールされているコンピューターの LAN 端子と接続します (PRO DJ LINK)。
複数の機器と接続するときはスイッチングハブ (市販) を使って接続してください。
100Base-TX 対応のスイッチングハブをお使いください。スイッチングハブによっては正常に動作しないことがあります。

12 BOOTH 端子 (10ページ)
ブースモニター用出力端子です。

13 REC OUT 端子 (10ページ)
録音用出力端子です。

14 MASTER2 端子 (10ページ)
パワーアンプなどを接続します。

15 MASTER1 端子 (10ページ)
パワーアンプなどを接続します。
必ずバランス出力としてお使いください。**他製品の電源コードを誤って挿入しないようにご注意ください。**

16 SEND 端子 (10ページ)
外部エフェクターの入力端子と接続します。[**L (MONO)**] だけに接続すると、モノラル音声を出力します。

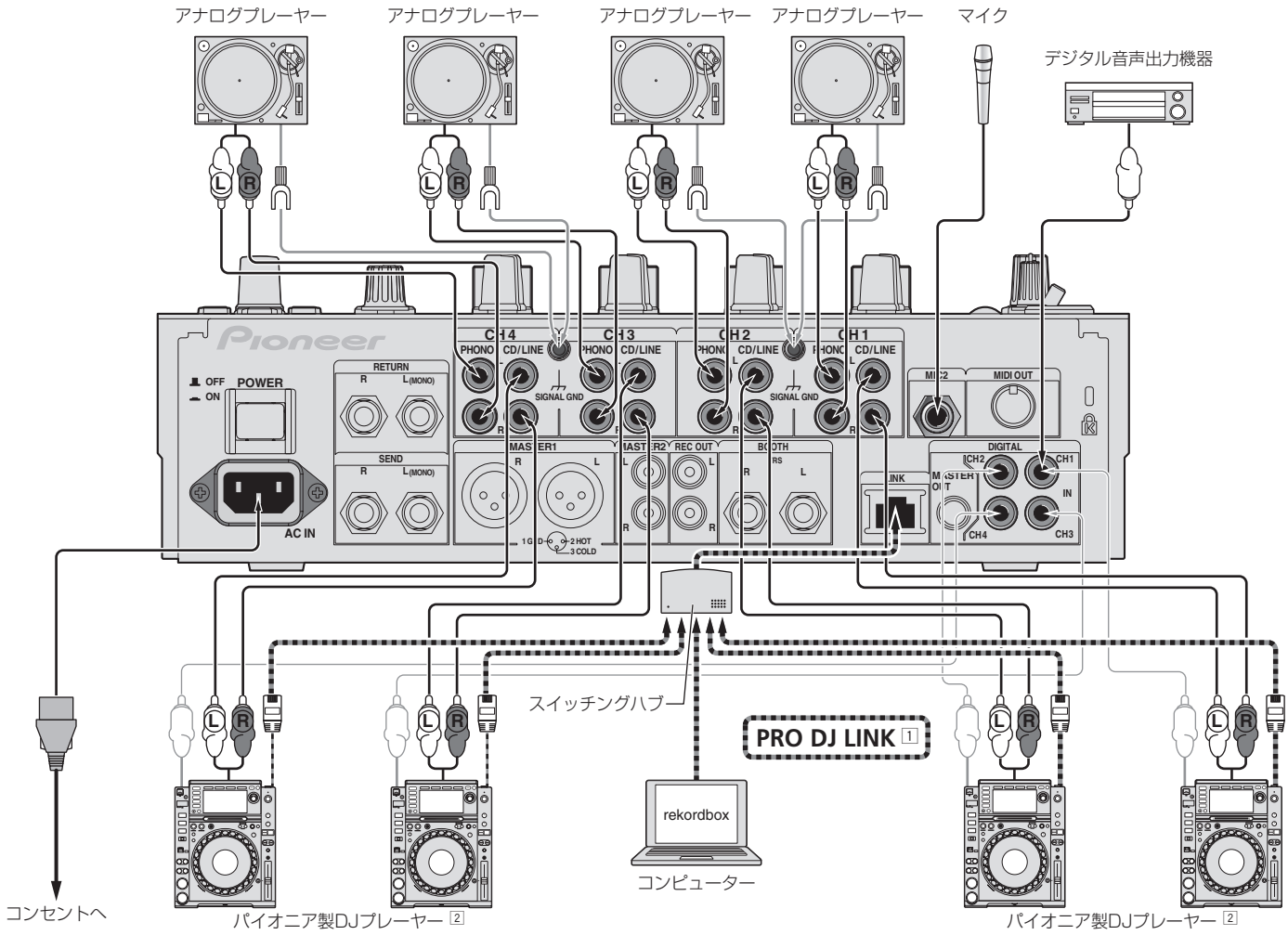
17 AC IN
付属の電源コードを使ってコンセントと接続します。電源コードは、機器の接続がすべて終わってから接続してください。
必ず付属の電源コードをお使いください。

⚠ 注意
製品の仕様により、本体部やリモコン (付属の場合) のスイッチを操作することで表示部がすべて消えた状態となり、電源プラグをコンセントから抜いた状態と変わらなく見える場合がありますが、電源の供給は停止していません。製品を電源から完全に遮断するためには、電源プラグ (遮断装置) をコンセントから抜く必要があります。製品はコンセントの近くで、電源プラグ (遮断装置) に簡単に手が届くように設置し、旅行などで長期間ご使用にならないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

警告
ショートピンプラグは幼児の手の届くところに置かないでください。万一飲み込んだ場合にはただちに医師と相談してください。

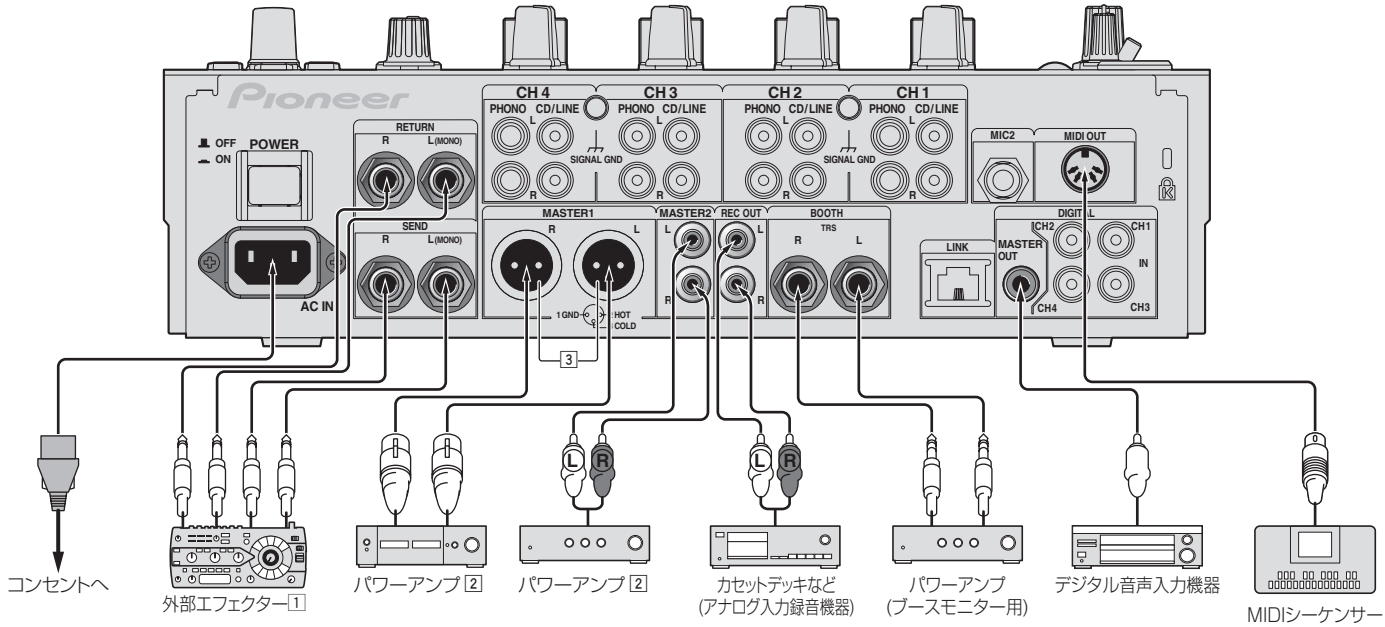
入力端子に接続する

- コンピューターやオーディオインターフェースなどと組み合わせて DVS(Digital Vinyl System) を構築するときは、オーディオインターフェースと本機の入力端子の接続および入力切換スイッチの設定にご注意ください。
  DJソフトウェアおよびオーディオインターフェースの取扱説明書もあわせてご覧ください。



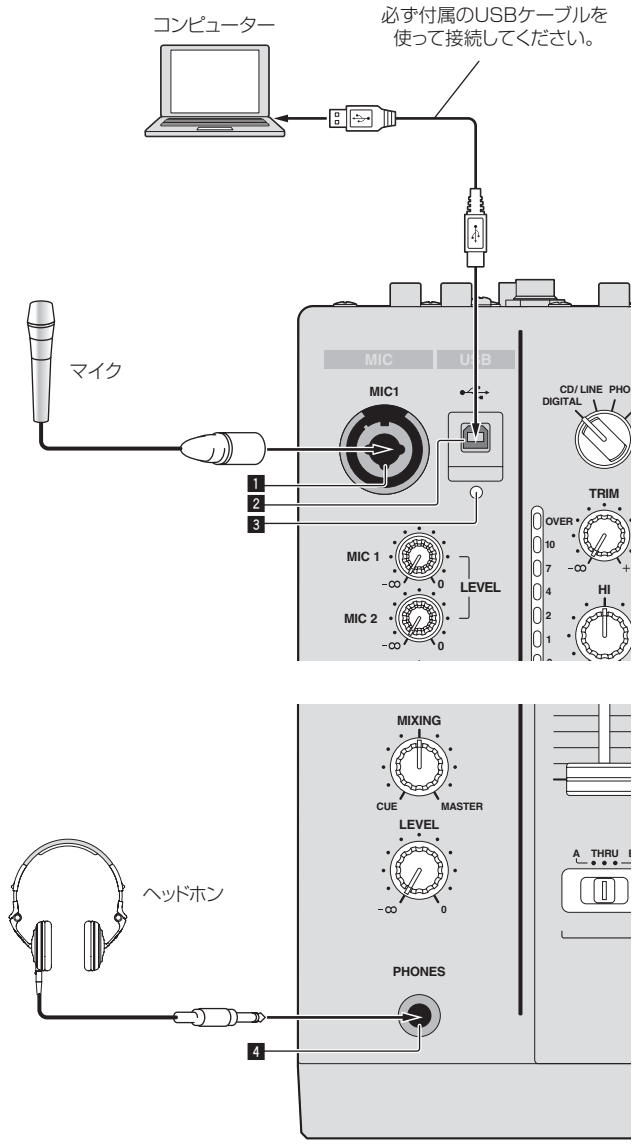
1 PRO DJ LINK については、14ページ の「PRO DJ LINK について」をご覧ください。
2 PRO DJ LINK でフェーダースタート機能を使うときは、LAN ケーブルを接続します (15ページ)。

出力端子に接続する



1 外部エフェクターは [**RETURN**] 端子 (入力端子) にも接続してください。
2 [**MASTER1**] 端子は必ずバランス出力としてお使いください。XLR-RCA 変換ケーブル (変換アダプター) などを使って、アンバランス入力 (RCA 等) へ接続すると、音質が悪くなったり、ノイズが発生する場合があります。
アンバランス入力 (RCA 等) への接続には [**MASTER2**] 端子をお使いください。
3 **[MASTER1] 端子に他製品の電源コードを誤って挿入しないようにご注意ください。**

操作パネルに接続する



1 MIC1 端子 (14ページ)
マイクを接続します。

2 USB 端子 (11ページ)
コンピューターを接続します。

3 USB 接続インジケーター
コンピューターと通信しているときに点灯します。

4 PHONES 端子 (13ページ)
ヘッドホンを接続します。

本機とコンピューターを接続する

Serato DJ との組み合わせ操作については「クイックスタートガイド Serato DJ 編」をご覧ください。詳細については、「最新版の取扱説明書 / クイックスタートガイド Serato DJ 編をダウンロードする」(p.27) をご覧ください。

1 本機とコンピューターを USB ケーブルで接続する

本機は ASIO 規格に準拠したオーディオデバイスとしての機能を備えています。

- USB2.0 に対応していないコンピューターでは動作しません。
- ASIO 対応のアプリケーションを使うときは、[**USB DECK 3**]、[**USB DECK 1**]、[**USB DECK 2**] および [**USB DECK 4**] を入力として使えます。
- DirectX 対応のアプリケーションを使うときは、[**USB DECK 3**] だけ入力として使えます。
- DJ アプリケーションによってコンピューターの推奨動作環境が異なります。お使いの DJ アプリケーションの推奨動作環境を必ずご確認ください。
- 他の USB オーディオデバイスと同時にコンピューターに接続すると、正常に動作および認識されないことがあります。
  コンピューターと本機だけを接続することをお勧めします。
- コンピューターと接続するときは、本機の USB 端子に直接接続することをお勧めします。

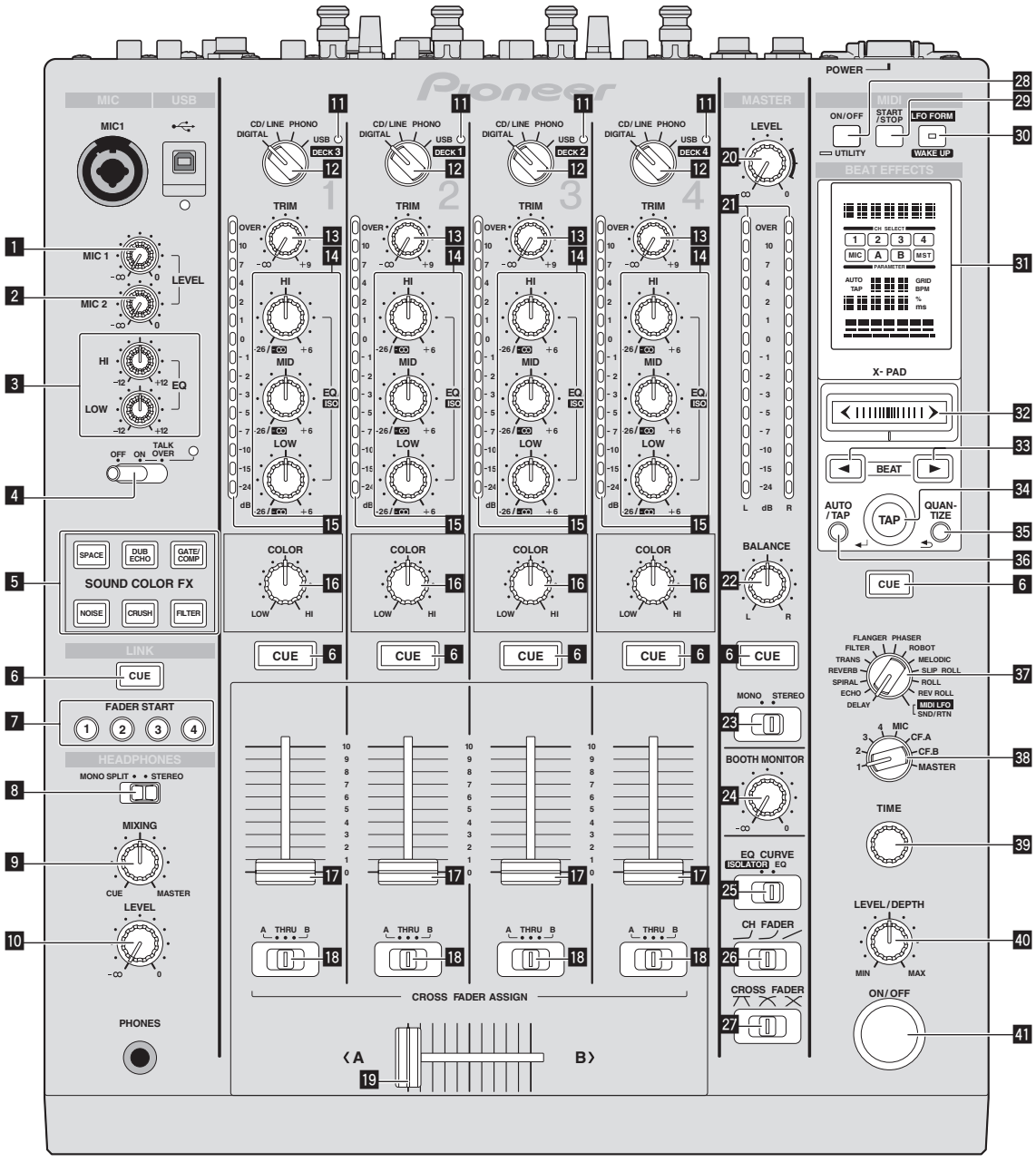
2 [POWER] ボタンを押す

本機の電源をオンにします。

- Windows のとき
  — 本機をはじめてコンピューターに接続したとき、またはコンピューターの USB 端子をつなぎ変えたときに [**デバイスドライバソフトウェアをインストールしています。**] メッセージが表示されることがあります。[**デバイスを使用する準備ができました。**] メッセージが表示されるまでそのままお待ちください。
- Windows XP にインストールしているとき
  — インストールの途中で [**ハードウェア検索のため、Windows Update に接続しますか？**] と表示されることがありますが、[**いいえ、今回は接続しません**] を選んで [**次へ**] をクリックしてインストールを続行してください。
  — インストールの途中で [**インストール方法を選んでください**] と表示されることがありますが、[**ソフトウェアを自動的にインストールする (推奨)**] を選んで [**次へ**] をクリックしてインストールを続行してください。
  — インストールの途中で [**Windows セキュリティ**] 画面が表示されることがありますが、[**このドライバソフトウェアをインストールします**] をクリックしてインストールを続行してください。

操作する

操作パネル



1 MIC1 LEVEL ツマミ（14ページ）
[**MIC1**] チャンネルから出力される音声レベルを調整します。

2 MIC2 LEVEL ツマミ（14ページ）
[**MIC2**] チャンネルから出力される音声レベルを調整します。

3 EQ (HI, LOW) ツマミ（14ページ）
[**MIC1**] チャンネルおよび [**MIC2**] チャンネルの音質を調整します。

4 OFF, ON, TALK OVER 切換スイッチ（14ページ）
マイクをオン / オフします。

5 SOUND COLOR FX ボタン（15ページ）
SOUND COLOR FX をオン / オフします。

6 CUE ボタン（13ページ）
モニターしたいチャンネルの [**CUE**] ボタンを押します。

7 FADER START (1, 2, 3, 4) ボタン（15ページ）
フェーダースタート機能をオン / オフします。

8 MONO SPLIT, STEREO 切換スイッチ（13ページ）
ヘッドホンから出力されるモニター音声の振り分け方法を切り換えます。

9 MIXING ツマミ（13ページ）
[**CUE**] ボタンが押してあるチャンネルの音声と [**MASTER**] チャンネルの音声のモニター音量バランスを調整します。

10 LEVEL ツマミ（13ページ）
ヘッドホンから出力される音声レベルを調整します。

11 USB 音声入力インジケーター
コンピューターから各チャンネルに音声が入力されているとき点灯します。

12 入力切換スイッチ（13ページ）
本機に接続している機器の中から、各チャンネルの入力ソースを切り換えます。

13 TRIM ツマミ（13ページ）
各チャンネルに入力される音声レベルを調整します。

14 EQ/ISO (HI, MID, LOW) ツマミ（13ページ）
各チャンネルの音質を調整します。

15 チャンネルレベルインジケーター（13ページ）
各チャンネルのチャンネルフェーダー通過前の音声レベルを表示します。

16 COLOR ツマミ（15ページ）
各チャンネルの SOUND COLOR FX のパラメーターを変化させます。

17 チャンネルフェーダー (13ページ)
各チャンネルから出力される音声レベルを調整します。

18 CROSS FADER ASSIGN (A, THRU, B) 切換スイッチ (13ページ)
チャンネルの出力先をクロスフェーダーの [**A**] 側または [**B**] 側に割り当てます。

19 クロスフェーダー (13ページ)
クロスフェーダーアサインスイッチによって割り当てられた音声を、[**CROSS FADER**] (クロスフェーダーカーブ切換スイッチ) で選んでいるカーブ特性に従って出力します。

20 MASTER LEVEL ツマミ (13ページ)
[**MASTER1**] 端子および [**MASTER2**] 端子から出力される音声レベルを調整します。

21 マスターレベルインジケーター (13ページ)
[**MASTER1**] 端子および [**MASTER2**] 端子から出力される音声レベルを表示します。

22 BALANCE ツマミ (14ページ)
[**MASTER1**] 端子などから出力される音声の左右のバランスを調整します。

23 MONO, STEREO 切換スイッチ (14ページ)
[**MASTER1**] 端子などから出力される音声のモノラル / ステレオを切り換えます。

24 BOOTH MONITOR ツマミ (14ページ)
[**BOOTH**] 端子から出力される音声レベルを調整します。

25 EQ CURVE (ISOLATOR, EQ) 切換スイッチ (13ページ)
[**EQ/ISO** (**HI**, **MID**, **LOW**)] ツマミの機能を切り換えます。

26 CH FADER (, ,) 切換スイッチ (13ページ)
チャンネルフェーダーのカーブ特性を切り換えます。

27 CROSS FADER (, ,) 切換スイッチ (13ページ)
クロスフェーダーのカーブ特性を切り換えます。

28 ON/OFF (UTILITY) ボタン
— **ON/OFF**：MIDI をオン / オフします (16ページ)。
— **UTILITY**：[**USER SETUP**] 画面または [**CLUB SETUP**] 画面を表示します (23ページ)。

29 START/STOP ボタン (17ページ)
MIDI スタート /MIDI ストップを送信します。

30 LFO FORM (WAKE UP) ボタン
— **LFO FORM**：BEAT EFFECT で [**MIDI LFO**] を選んでいるとき、ボタンを押すたびに MIDI 信号の波形を切り換えます (19ページ)。
— **WAKE UP**：オートスタンバイ状態を解除します。

31 本体表示部

32 X-PAD (16ページ)
BEAT EFFECT の量的パラメーターを調整します。

33 BEAT ◀, ▶ ボタン (15ページ)
エフェクト音を同期させる拍の倍率を設定します。

34 TAP (ENTER) ボタン
— **TAP**：BPM の測定モードが [**TAP**] のとき、ボタンを指でたたいて手動で BPM を入力します (15ページ)。
— **ENTER**：本機の設定を変更するときに使います (23ページ)。

35 QUANTIZE ボタン
BEAT EFFECT で QUANTIZE 機能がオンになっているとき、再生中のトラックのテンポとずれることなく音声にエフェクトを加えます。(14ページ)。

36 AUTO/TAP ボタン (15ページ)
BPM の測定モードを切り換えます。

37 ビートエフェクト切換スイッチ (15ページ)
BEAT EFFECT のエフェクトの種類を切り換えます。

38 エフェクトチャンネル切換スイッチ (15ページ)
BEAT EFFECT を加えるチャンネルを切り換えます。

39 TIME ツマミ (15ページ)
BEAT EFFECT の時間的パラメーターを調節します。

40 LEVEL/DEPTH ツマミ (15ページ)
BEAT EFFECT の量的パラメーターを調整します。

41 ON/OFF ボタン (15ページ)
BEAT EFFECT をオン / オフします。

チャンネルフェーダーツマミおよびクロスフェーダーツマミは無理に引き抜かないでください。簡単に引き抜けない構造になっているため、ノブが壊れる可能性があります。

基本操作

音声を出力する

1 [POWER] ボタンを押す
本機の電源をオンにします。

2 入力切換スイッチを切り換える
本機に接続している機器の中から、各チャンネルの入力ソースを選びます。
— [**DIGITAL**]：[**DIGITAL**] 端子に接続している DJ プレーヤーを選びます。
— [**PHONO**]：[**PHONO**] 端子に接続しているアナログプレーヤーを選びます。
— [**CD/LINE**]：[**CD/LINE**] 端子に接続しているカセットデッキや CD プレーヤーを選びます。
— [**USB**]：[**USB**] 端子に接続しているコンピューターの音声を選びます。

3 [TRIM] ツマミを回す
各チャンネルに入力される音声レベルを調整します。
各チャンネルに音声が正しく入力されているときは、チャンネルレベルインジケーターが点灯します。

4 チャンネルフェーダーを奥側に動かす
各チャンネルから出力される音声レベルを調整します。

5 [CROSS FADER ASSIGN (A, THRU, B)] 切換スイッチを切り換える
各チャンネルの出力先を切り換えます。
— [**A**]：クロスフェーダーの [**A**] (左) 側に割り当てます。
— [**B**]：クロスフェーダーの [**B**] (右) 側に割り当てます。
— [**THRU**]：クロスフェーダーを使わないときに選びます (クロスフェーダーは通過しません)。

6 クロスフェーダーを動かす
[**CROSS FADER ASSIGN** (**A**, **THRU**, **B**)] 切換スイッチを [**THRU**] に設定しているときは、この操作は必要ありません。

7 [MASTER LEVEL] ツマミを回す
[**MASTER1**] 端子および [**MASTER2**] 端子から音声が出力されます。
マスターレベルインジケーターが点灯します。

音質を調整する

1 [EQ CURVE (ISOLATOR, EQ)] 切換スイッチを切り換える
— [**ISOLATOR**]：アイソレーターとして機能します。
— [**EQ**]：イコライザーとして機能します。

2 各チャンネルの [EQ/ISO (HI, MID, LOW)] ツマミを回す
各ツマミで調整できる音域は以下のとおりです。
— **HI**：− 26 dB ～+ 6 dB (13 kHz)
— **MID**：− 26 dB ～+ 6 dB (1 kHz)
— **LOW**：− 26 dB ～+ 6 dB (70 Hz)

ヘッドホンで音声をモニターする

1 [PHONES] 端子にヘッドホンを接続する

2 モニターしたいチャンネルの [CUE] ボタンを押す

3 [MONO SPLIT, STEREO] 切換スイッチを切り換える
— [**MONO SPLIT**]：ヘッドホン出力の左チャンネルから [**CUE**] ボタンが押してあるチャンネルの音声、右チャンネルから [**MASTER**] チャンネルの音声が出力されます。
— [**STEREO**]：[**CUE**] ボタンが押してあるチャンネルの音声がヘッドホンからステレオ音声で出力されます。

4 [MIXING] ツマミを回す
[**CUE**] ボタンが押してあるチャンネルの音声と [**MASTER**] チャンネルの音声のモニター音量バランスを調整します。

5 [HEADPHONES] の [LEVEL] ツマミを回す
[**CUE**] ボタンが押してあるチャンネルの音声がヘッドホンから出力されます。
• [**CUE**] ボタンをふたたび押すと、モニターが解除されます。

フェーダーカーブを切り換える

❖ チャンネルフェーダーのカーブ特性を選ぶ

[CH FADER (, ,)] 切換スイッチを切り換える
— [ ]：奥側で急峻に立ち上がるカーブになります。

— [ ]：上下 2 つの中間のカーブになります。
— [ ]：徐々に立ち上がるカーブになります (チャンネルフェーダーが手前側から離れると音声が徐々に大きくなります)。

❖ クロスフェーダーのカーブ特性を選ぶ

[CROSS FADER (, ,)] 切換スイッチを切り換える
— [ ]：急峻に立ち上がるカーブになります (クロスフェーダーが [**A**] 側の端から離れると、すぐに [**B**] 側の音声が出力されます)。
— [ ]：上下 2 つの中間のカーブになります。
— [ ]：徐々に立ち上がるカーブになります (クロスフェーダーが [**A**] 側の端から離れると、[**B**] 側の音声が徐々に大きくなり、[**A**] 側の音声は徐々に小さくなります)。

マイクを使う

1 [MIC1] 端子または [MIC2] 端子にマイクを接続する

2 [OFF, ON, TALK OVER] 切換スイッチを [ON] または [TALK OVER] に設定する
— [**ON**]：インジケーターが点灯します。
— [**TALK OVER**]：インジケーターが点滅します。
- [**TALK OVER**] に設定すると、マイクに− 10 dB 以上の音声が入力されたとき [**MIC**] チャンネル以外の音声が 18 dB (初期設定値) 減衰します。
- [**TALK OVER**] の音声減衰レベルは [**USER SETUP**] で変更できます。変更方法については、23ページ の「設定を変更する」をご覧ください。
- トークオーバーモードは、ノーマルモードとアドバンスドモードに切り換えられます。変更方法については、23ページ の「設定を変更する」をご覧ください。

3 [MIC1 LEVEL] ツマミまたは [MIC2 LEVEL] ツマミを回す
[**MIC**] チャンネルから出力される音声レベルを調整します。
- 右に回しすぎると大音量で音声が出力されますのでご注意ください。

4 マイクに音声を入力する

❖ 音質を調整する

[MIC] チャンネルの [EQ (HI, LOW)] ツマミを回す
各ツマミで調整できる音域は以下のとおりです。
— **HI**：− 12 dB ～+ 12 dB (10 kHz)
— **LOW**：− 12 dB ～+ 12 dB (100 Hz)

モノラル音声 / ステレオ音声を切り換える

[**MASTER1**] 端子、[**MASTER2**] 端子、[**BOOTH**] 端子、[**REC OUT**] 端子、[**PHONES**] 端子、[**DIGITAL MASTER OUT**] 端子、および [**USB**] 端子から出力される音声のモノラル音声 / ステレオ音声を切り換えられます。
- [**USB**] 端子から出力される音声を調整するときは、設定ユーティリティの [**Mixer Audio Output**] で [**MIX (REC OUT)**] を選んでください。

[MONO, STEREO] 切換スイッチを切り換える
— [**MONO**]：モノラル音声が出力されます。
— [**STEREO**]：ステレオ音声が出力されます。

❖ 音声の左右バランスを調整する

[**MASTER1**] 端子、[**MASTER2**] 端子、[**BOOTH**] 端子、[**REC OUT**] 端子、[**PHONES**] 端子、[**DIGITAL MASTER OUT**] 端子、および [**USB**] 端子から出力される音声の左右のバランスを調整できます。
- [**USB**] 端子から出力される音声を調整するときは、設定ユーティリティの [**Mixer Audio Output**] で [**MIX (REC OUT)**] を選んでください。

1 [MONO, STEREO] 切換スイッチを [STEREO] に設定する

2 [BALANCE] ツマミを回す
[**BALANCE**] ツマミを回す方向と位置によって音声の左右のバランスが変化します。
- 右に回しきるとステレオ音声の右側音声だけ出力されます。左に回しきるとステレオ音声の左側音声だけ出力されます。

[BOOTH] 端子から音声を出力する

[BOOTH MONITOR] ツマミを回す
[**BOOTH**] 端子から出力される音声レベルを調整します。

応用操作

Serato DJ 対応機能を使う

Serato DJ が起動しているコンピューターと本機をUSBケーブルで接続すると、以下の機能をお使いいただけます。

❖ QUANTIZE

Serato DJ により解析された楽曲を使うと、ラフに [**BEAT EFFECTS**] の [**ON/OFF**] ボタンを押したり [**X-PAD**] に触ったりしてもオンビートとなります。

❖ FADER START

本機のフェーダー操作に連動して Serato DJ 上のトラックの再生をスタートさせることができます (フェーダースタートプレイ)。

PRO DJ LINK について

PRO DJ LINK 対応のパイオニア製 DJ プレーヤー (CDJ-2000nexus、CDJ-2000、CDJ-900 など)、rekordbox がインストールされているコンピューター、および本機をLANケーブルを使って接続すると以下のPRO DJ LINK 機能をお使いいただけます。
PRO DJ LINK 機能については、DJ プレーヤーの取扱説明書および rekordbox の操作説明書もあわせてご覧ください。
接続の仕方については、10ページ の「入力端子に接続する」をご覧ください。
- スイッチングハブを使って接続すると、DJ プレーヤーは最大 4 台まで、コンピューターは最大 2 台まで接続できます。
- 100Base-TX 対応のスイッチングハブをお使いください。スイッチングハブによっては正常に動作しないことがあります。
- DJ プレーヤーのプレーヤー番号は、音声ケーブルを接続したチャンネルと同じ番号に設定してください。

❖ QUANTIZE

rekordbox により解析された楽曲を使うと、ラフに [**BEAT EFFECTS**] の [**ON/OFF**] ボタンを押したり [**X-PAD**] に触ったりしてもオンビートとなります。

❖ FADER START

本機のフェーダー操作に連動して、DJ プレーヤーの再生をスタートさせることができます (フェーダースタートプレイ)。

❖ LINK MONITOR

コンピューターに保存されている rekordbox の音楽ファイルを、ヘッドホンで素早くモニターできます。

❖ STATUS INFORMATION

接続しているチャンネルの状態 (オンエア状況やチャンネル番号など) を DJ プレーヤーに知らせます。

QUANTIZE 機能を使う

Serato DJ で解析された楽曲、または rekordbox で解析された楽曲の GRID 情報をもとに、再生中のトラックのテンポとずれることなく音声にエフェクトを加えることができます。
PRO DJ LINK で QUANTIZE 機能を使う場合は、あらかじめ本機と PRO DJ LINK 対応のパイオニア製 DJ プレーヤーを接続してください。接続の仕方については、10ページ の「入力端子に接続する」をご覧ください。
また、QUANTIZE 機能を使うためには、事前に rekordbox で音楽ファイルを解析する必要があります。rekordbox で音楽ファイルを解析する方法については、rekordbox の操作説明書もあわせてご覧ください。
- CDJ-2000nexus と組み合わせて使うときは、ファームウェアのバージョンを 1.02 以降にアップデートしてからお使いください。
- CDJ-2000、CDJ-900 と組み合わせて使うときは、ファームウェアのバージョンを 4.0 以降にアップデートしてからお使いください。

1 [QUANTIZE] ボタンを押す
QUANTIZE 機能をオンにします。
Serato DJ や DJ プレーヤーから GRID 情報を正しく受信し QUANTIZE 機能が使用可能なときは、本機の本体表示部の [**GRID**] が点灯します。GRID 情報を正しく受信できていないときは [**GRID**] が点滅します。
- Serato DJ や DJ プレーヤーの再生状態 (オフエア、スクラッチ中、リバース再生中など) によっては GRID 情報が受け取れないことがあります。

2 [BEAT EFFECTS] の [ON/OFF] ボタンを押す、または [X-PAD] に触れる
再生中のトラックのテンポとずれることなく音声にエフェクトが加わります。
- ふたたび [**QUANTIZE**] ボタンを押すと、QUANTIZE 機能がオフになります。

FADER START 機能を使う

Serato DJ が起動しているコンピューターと本機を USB ケーブルで接続すると、Serato DJ 上のトラックの再生を始めるなどの操作を、本機のフェーダーで制御できます。
あらかじめ Serato DJ が起動しているコンピューターと本機を接続してください。
同様に、パイオニア製 DJ プレーヤーと本機を LAN ケーブルを使って接続すると、DJ プレーヤーの再生を始めるなどの操作を、本機のフェーダーで制御できます。
あらかじめパイオニア製 DJ プレーヤーと本機を接続してください。接続の仕方については、10ページ の「入力端子に接続する」をご覧ください。
パイオニア製 DJ プレーヤーのプレーヤー番号の設定については、14ページ の「PRO DJ LINK について」をご覧ください。
フェーダースタート機能のオン / オフは一括して切り換えられます。切り換え方法については、23ページ の「設定を変更する」をご覧ください。

- Serato DJ が Absolute モードに設定されている状態で DVS コントロールしようとするときは、FADER START 機能は使えません。Absolute モード設定時に [**FADER START** (**1**, **2**, **3**, **4**)] ボタンのいずれかを押した場合は、そのボタンが点滅したあと消灯します。

❖ チャンネルフェーダーを使って再生を始める

1 [CROSS FADER ASSIGN (A, THRU, B)] 切換スイッチを [THRU] に設定する

2 [FADER START (1, 2, 3, 4)] ボタンのいずれかを押す
フェーダースタートさせたいチャンネルを選びます。

- Serato DJ のとき
  — [**Fader Start 1**] ボタン : [**DECK 3**] を選びます。
  — [**Fader Start 2**] ボタン : [**DECK 1**] を選びます。
  — [**Fader Start 3**] ボタン : [**DECK 2**] を選びます。
  — [**Fader Start 4**] ボタン : [**DECK 4**] を選びます。

3 チャンネルフェーダーを一番手前の位置に設定する

4 Serato DJ や DJ プレーヤーでキューを設定する
キューポイントで頭出しされて一時停止状態になります。

5 チャンネルフェーダーを奥側に動かす
Serato DJ 上の楽曲や DJ プレーヤーの再生が始まります。

- チャンネルフェーダーの位置を元に戻すと、設定されているキューポイントに瞬時に戻り、頭出しされて一時停止状態になります (バックキュー)。

❖ クロスフェーダーを使って再生を始める

1 [CROSS FADER ASSIGN (A, THRU, B)] 切換スイッチを [A] または [B] に設定する

2 [FADER START (1, 2, 3, 4)] ボタンのいずれかを押す
フェーダースタートさせたいチャンネルを選びます。

- Serato DJ のとき
  — [**Fader Start 1**] ボタン : [**DECK 3**] を選びます。
  — [**Fader Start 2**] ボタン : [**DECK 1**] を選びます。
  — [**Fader Start 3**] ボタン : [**DECK 2**] を選びます。
  — [**Fader Start 4**] ボタン : [**DECK 4**] を選びます。

3 クロスフェーダーを動かす
フェーダースタートさせたいチャンネルが設定されている側とは反対側の端に設定します。

4 Serato DJ や DJ プレーヤーでキューを設定する
キューポイントで頭出しされて一時停止状態になります。

5 クロスフェーダーを動かす
Serato DJ 上の楽曲や DJ プレーヤーの再生が始まります。

- クロスフェーダーの位置を元に戻すと、設定されているキューポイントに瞬時に戻り、頭出しされて一時停止状態になります (バックキュー)。

LINK MONITOR 機能を使う

- あらかじめ rekordbox の [**ファイル**] > [**環境設定**] > [**オーディオ**] で [**PIONEER DJ ミキサーの「LINK MONITOR」機能を使用する**] にチェックを入れてください。rekordbox の操作説明書もあわせてご覧ください。

1 [PHONES] 端子にヘッドホンを接続する

2 rekordbox がインストールされているコンピューターを接続する
接続の仕方については、10ページ の「入力端子に接続する」をご覧ください。

3 rekordbox でモニターしたい楽曲を選ぶ

4 [LINK] の [CUE] ボタンを押す
rekordbox で選んだ楽曲がヘッドホンから出力されます。

- [**CUE**] ボタンをふたたび押すと、モニターが解除されます。
- 「ヘッドホンで音声をモニターする」(手順 3 ～手順 5) と同じ操作をすることができます。

SOUND COLOR FX を使う

[**COLOR**] ツマミに連動して変化するエフェクトです。

1 [SOUND COLOR FX] 選択ボタンのいずれかを押す
エフェクトの種類を選びます。
押したボタンが点滅します。

- すでに [**SOUND COLOR FX**] 選択ボタンのいずれかが選ばれていても、新たに別の [**SOUND COLOR FX**] 選択ボタンを選んで押すと、新たに押したボタンが選ばれます。
- エフェクトの種類については、18ページ の「SOUND COLOR FX の種類」をご覧ください。
- [**CH1**] ～ [**CH4**] に同じエフェクトが設定されます。

2 [COLOR] ツマミを回す
ツマミを回したチャンネルの音声にエフェクトが加わります。

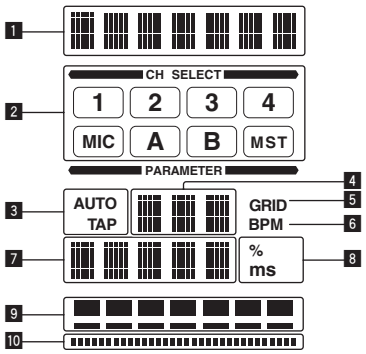
❖ SOUND COLOR FX を終了する

点滅している [SOUND COLOR FX] 選択ボタンを押す
エフェクトが解除されます。

BEAT EFFECT を使う

再生中の曲のテンポ (BPM=Beats Per Minute) に合わせたさまざまなエフェクトを瞬時に設定できます。

本体表示部



1	エフェクト表示部	選んでいるエフェクト名が表示されます。
2	チャンネルセレクト表示部	エフェクトを加えるチャンネル名が表示されます。
3	**AUTO** (**TAP**)	BPM 測定モードがオートモードのとき [**AUTO**] が点灯します。 手動入力モードのとき [**TAP**] が点灯します。
4	BPM 値表示 (3 桁)	オートモードのときは自動で検出した BPM 値を表示します。 検出できないときは前回検出した BPM 値で点滅します。 手動入力モードのときは手動で入力した BPM 値を表示します。
5	**GRID**	Serato DJ が起動していて QUANTIZE 機能が使えるときに点灯します。また、rekordbox で解析された楽曲を再生している場合、DJ プレーヤーと組み合わせて QUANTIZE 機能が使えるとき点灯します。QUANTIZE 機能が使えないときは点滅または消灯します。
6	**BPM**	常時点灯します。
7	パラメーター表示部	エフェクトごとに指定されたパラメーターを表示します。 [**BEAT ◄**, **►**] ボタンを押したとき、対応する拍の倍率を 1 秒間表示します。 [**BEAT ◄**, **►**] ボタンでパラメーター範囲外が指定されたとき、数値は変化せずに点滅します。
8	% **(ms)**	エフェクトごとの単位に合わせて点灯します。
9	ビート表示部	選んでいる拍数の位置に合わせて点灯します。
10	タッチ表示部	[**X-PAD**] に触れているとき点灯します。

1 [AUTO/TAP] ボタンを押す
BPM の測定モードを選びます。

- — [**AUTO**] : 入力されている音声信号から BPM を自動測定します。本機の電源をオンにしたときは、[**AUTO**] に設定されます。
- — [**TAP**] : [**TAP**] ボタンを指でたたいて BPM を手動で入力します。

- [**AUTO**] の BPM 測定範囲は BPM=70 ～ 180 です。曲によっては正しく測定できないことがあります。BPM を測定できないときは表示部の BPM 値が点滅します。そのときは [**TAP**] ボタンを使って手動で入力してください。

2 ビートエフェクト切換スイッチを回す
エフェクトの種類を選びます。

- エフェクトの種類については、18ページ の「BEAT EFFECT の種類」をご覧ください。
- [**SND/RTN**] を使うときは、以下の「外部エフェクターを使う」をご覧ください。
- [**MIDI LFO**] を使うときは、16ページ の「MIDI LFO を使う」をご覧ください。

3 エフェクトチャンネル切換スイッチを回す
エフェクトを加えるチャンネルを選びます。
— [**1**] ～ [**4**]：各チャンネルの音声にエフェクトを加えます。
— [**MIC**]：[**MIC**] チャンネルの音声にエフェクトを加えます。
— [**CF.A**]，[**CF.B**]：クロスフェーダーの [**A**]（左）側または [**B**]（右）側の音声にエフェクトを加えます。
— [**MASTER**]：[**MASTER**] チャンネルの音声にエフェクトを加えます。
• [**MIDI LFO**] を選んだときは、この操作は必要ありません。

4 [BEAT ◄, ►] ボタンを押す
エフェクト音を同期させる拍の倍率を設定します。
拍の倍率に対応したエフェクトタイムが自動で設定されます。

5 [BEAT EFFECTS] の [ON/OFF] ボタンを押す
音声にエフェクトが加わります。
[**TIME**] ツマミを回すと、エフェクトの時間的パラメーターを調節できます。
[**LEVEL**/**DEPTH**] ツマミを回すと、エフェクトの量的パラメーターを調節できます。
エフェクトをオンにしているとき [**ON/OFF**] ボタンが点滅します。
• [**ON/OFF**] ボタンをふたたび押すと、エフェクトがオフになります。

❖ BPM を手動で入力する

再生中の音声の拍（4 分音符）に合わせて [TAP] ボタンを 2 回以上指でたたく
[**TAP**] ボタンを指でたたいた間隔の平均値が BPM に設定されます。
• [**TAP**] ボタンを使って BPM を設定すると拍の倍率は [**1/1**] に設定され、1 拍（4 分音符）の時間がエフェクトタイムに設定されます。
• [**TAP**] ボタンを押しながら [**TIME**] ツマミを回すと BPM を手動で設定できます。
• [**TAP**] ボタンを押しながら [**AUTO/TAP**] ボタンを押し、2 つのボタンを押しながら [**TIME**] ツマミを回すと BPM を 0.1 単位で設定できます。

❖ 外部エフェクターを使う

1 本機と外部エフェクターを接続する
接続の仕方については、10ページ の「出力端子に接続する」をご覧ください。

2 ビートエフェクト切換スイッチを回す
[**SND/RTN**（**MIDI LFO**）] を選びます。

3 エフェクトチャンネル切換スイッチを回す
エフェクトを加えるチャンネルを選びます。

4 [BEAT EFFECTS] の [ON/OFF] ボタンを押す
外部エフェクターを通過した音声が [**MASTER**] チャンネルから出力されます。
• [**ON/OFF**] ボタンをふたたび押すと、エフェクトがオフになります。

[X-PAD] を操作する

操作手順	[BEAT EFFECTS] の [ON/OFF] ボタンの状態	X-PAD	エフェクト
①	オフ（点灯）	放す ⇔ 触る	オフ ⇔ オン
②	オン（点滅）	放す ⇔ 触る	オン ⇔ オン

❖ 操作手順 ①

1 「BEAT EFFECT を使う」の手順 1 から手順 4 まで操作する

2 [X-PAD] に触れる
[**X-PAD**] はエフェクトのオン / オフの切り換えと量的パラメーターを変化させます。
• [**X-PAD**] から指を離すとエフェクトがオフになります。
• エフェクトをオンのまま [**X-PAD**] から指を離したいときは、[**X-PAD**] に触れた状態で [**BEAT EFFECTS**] の [**ON/OFF**] ボタンを押してから [**X-PAD**] から指を放してください。

❖ 操作手順 ②

1 「BEAT EFFECT を使う」の手順 1 から手順 5 まで操作する

2 [X-PAD] に触れる
[**X-PAD**] はエフェクトの量的パラメーターを変化させます。

MIDI を使って DJ ソフトウェアを操作する

本機はボタンやツマミなどの操作情報を汎用の MIDI 形式で出力します。
MIDI 対応の DJ ソフトウェアをインストールしたコンピューターと USB ケーブルを使って接続すると、本機で DJ ソフトウェアを操作できます。
お使いのコンピューターにあらかじめ DJ ソフトウェアをインストールしてください。また、DJ ソフトウェアのオーディオおよび MIDI に関する設定も行ってください。
• MIDI チャンネルの設定方法については、23ページ の「設定を変更する」をご覧ください。
• 本機が出力するメッセージについては、21ページ の「MIDI アサインマップ」をご覧ください。

1 本機の [USB] 端子とコンピューターを接続する
接続方法については、11ページ の「操作パネルに接続する」をご覧ください。

2 DJ ソフトウェアを起動する

3 [ON/OFF (UTILITY)] ボタンを押す
MIDI をオンにします。
MIDI メッセージの送信を始めます。
• フェーダーやツマミを動かすと、その位置に応じたメッセージを送信します。
• [**START**/**STOP**] ボタンを 2 秒以上続けて押すと、ボタン、フェーダーまたはツマミの位置に応じた MIDI メッセージを一括で送信します（スナップショット）。
• [**ON/OFF**（**UTILITY**）] ボタンをふたたび押すと、MIDI メッセージの送信を止めます。
• MIDI タイミングクロック（BPM 情報）は [**ON/OFF**（**UTILITY**）] ボタンに関係なく送信されます。

❖ MIDI LFO を使うための準備をする

MIDI LFO を使う前に MIDI 対応のソフトウェアや機器など（以下、MIDI 信号受信側）を準備（以下、ラーニング）する必要があります。
ラーニングは MIDI 信号受信側を操作します。
• 本機が出力するメッセージについては、21ページ の「MIDI アサインマップ」をご覧ください。

1 [ON/OFF (UTILITY)] ボタンを押す
MIDI をオンにします。

2 ビートエフェクト切換スイッチを回す
[**SND/RTN**（**MIDI LFO**）] を選びます。
エフェクト表示部に [**S/R⇄LFO**] が点滅したあと [**SND/RTN**] と表示されます。

3 [BEAT EFFECTS] の [ON/OFF] ボタンを押す
[**BEAT EFFECTS**] の [**ON/OFF**] ボタンの MIDI メッセージを MIDI 信号受信側にラーニングさせます。
• [**SND/RTN**（**MIDI LFO**）] を選んでいるときと [**SND/RTN**（**MIDI LFO**）] 以外を選んでいるときでは、[**BEAT EFFECTS**] の [**ON/OFF**] ボタンから送信される MIDI メッセージが異なります。
[**SND/RTN**（**MIDI LFO**）] を選んでいるときの [**BEAT EFFECTS**] の [**ON/OFF**] ボタンの MIDI メッセージは、この手順に沿って操作しているときだけ送信されます。

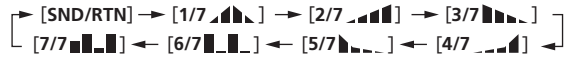
4 [LFO FORM (WAKE UP)] ボタンを押す
[**LFO FORM**（**WAKE UP**）] ボタンの MIDI メッセージを MIDI 信号受信側にラーニングさせます。
エフェクト表示部に [**1/7** ◢◮◺] と [**1/7 LFO**] が交互に表示されます。
• 必要に応じてその他のボタンやツマミの MIDI マッピングを設定してください。
[**LFO FORM**（**WAKE UP**）] ボタンの MIDI メッセージは連続して送信されるため、MIDI 信号受信側の設定によっては MIDI メッセージをラーニングできないことがあります。
その他のボタンやツマミの MIDI マッピングを設定するときは、[**LFO FORM**（**WAKE UP**）] ボタンを押して [**SND/RTN**] に切り換えてください。

❖ MIDI LFO を使う

あらかじめ「MIDI LFO を使うための準備をする」に従って準備してください。

1 ビートエフェクト切換スイッチを回す
[**SND/RTN**（**MIDI LFO**）] を選びます。
エフェクト表示部に [**S/R⇄LFO**] が点滅したあと [**SND/RTN**] と表示されます。

2 [LFO FORM (WAKE UP)] ボタンを押す
MIDI 信号の送信を始めます。
[**LFO FORM**（**WAKE UP**）] ボタンを押すたびに MIDI 信号の波形パターンが切り換わります。



3 [BEAT ◄, ►] ボタンを押す
MIDI 信号の波形出力時間を設定します。

4 [BEAT EFFECTS] の [ON/OFF] ボタンを押す、または [X-PAD] に触れる
エフェクトをオンにする MIDI メッセージが送信されます。
• [**LFO FORM**（**WAKE UP**）] ボタンを押して [**1/7** ◢◮◺] ～ [**7/7** ◼◮◺◼] を選んでいるとき、MIDI をオフにしても以下のボタンまたはツマミの MIDI メッセージを送信できます。
— [**X-PAD**]（触る ⇔ 放す）
— [**BEAT EFFECTS**] の [**CUE**] ボタン
— エフェクトチャンネル切換スイッチ
— [**LEVEL**/**DEPTH**] ツマミ

— [**BEAT EFFECTS**] の [**ON/OFF**] ボタン
- [**LFO FORM** (**WAKE UP**)] ボタンを押して [**SND/RTN**] と [**MIDI LFO**] を切り換えるとき、BEAT EFFECT が自動的にオフになります。
- [**X-PAD**] に触れているとき [**SND/RTN**] と [**MIDI LFO**] は切り換えられません。

❖ MIDI スタート /MIDI ストップを送信する

[MIDI] の [START/STOP] ボタンを押す
- MIDI スタート /MIDI ストップのメッセージは、MIDI のオン / オフにかかわらず [**START**/**STOP**] ボタンを押すたび交互に送信されます。

外部 MIDI シーケンサーを操作する

本機はボタンやツマミなどの操作情報を汎用の MIDI 形式で出力します。
本機は再生中の音声のテンポ (BPM情報) をMIDIタイミングクロックとして送信します。外部 MIDI シーケンサーを音声のテンポに同期させることができます。
- 本機が出力するメッセージについては、21ページ の「MIDI アサインマップ」をご覧ください。
- MIDIタイミングクロックに対応していない外部MIDIシーケンサーは同期できません。
- BPM が安定して測定できない音声では外部 MIDI シーケンサーは同期できません。
- [**TAP**] ボタンを指でたたいて手動で入力した BPM 値でも、MIDI タイミングクロックを出力します。MIDIタイミングクロックの出力範囲は 40 BPM～250 BPM です。

1 [MIDI OUT] 端子と外部 MIDI シーケンサーの MIDI IN 端子を市販の MIDI ケーブルを使って接続する

2 外部MIDIシーケンサーのシンクモードをスレーブに設定する

3 [MIDI] の [START/STOP] ボタンを押す
MIDI スタートを送信します。

4 [MIDI] の [ON/OFF] を押す
MIDI メッセージの送信を始めます。

エフェクトの種類

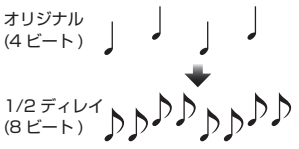
SOUND COLOR FX の種類

エフェクト名	説明	[COLOR] ツマミ
SPACE	原音に残響効果を加えます。	左回し：中・低音域に残響効果を加えます。 右回し：中・高音域に残響効果を加えます。
DUB ECHO	元の音声より少し遅れた音を減衰させながら数回出力し反響効果を加えます。	左回し：中音域だけに反響効果を加えます。 右回し：高音域だけに反響効果を加えます。
GATE/COMP	音声全体の質感を変化させます。	左回し：ゲート効果によって音がタイトになり、音量感が減ります。 右回し：コンプレッサー効果によって音が太くなり、音量感が増します。
NOISE	本機内部で発生させたホワイトノイズをフィルターに通してからチャンネルの音声とミックスして出力します。 • 各チャンネルの [**TRIM**] ツマミを回して音量を調節できます。また、[**EQ/ISO** (**HI**, **MID**, **LOW**)] ツマミを回して音質を調整できます。	左回し：ホワイトノイズを通すフィルターのカットオフ周波数が徐々に下がります。 右回し：ホワイトノイズを通すフィルターのカットオフ周波数が徐々に上がります。
CRUSH	元の音声を壊したような音に変化させて出力します。	左回し：音声の歪みが増します。 右回し：音声を壊してからハイパスフィルターを通過させます。
FILTER	フィルターを通した音声を出力します。	左回し：ローパスフィルターのカットオフ周波数が徐々に下がります。 右回し：ハイパスフィルターのカットオフ周波数が徐々に上がります。

BEAT EFFECT の種類

DELAY[1]

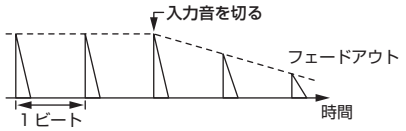
[**BEAT ◄, ►**] ボタンで設定した拍の倍率に合わせてディレイ音を 1 回出力します。
1/2 ビートのディレイ音を重ねると 4 ビートが 8 ビートになります。



BEAT ◄, ► ボタン（パラメーター 1）	BPM の 1 拍の時間に対して **1/8** ～ **16/1** のディレイタイムを設定します。
TIME ツマミ（パラメーター 2）	ディレイタイムを設定します。 **1** ～ **4000** (ms)
LEVEL/DEPTH ツマミ（パラメーター 3）	原音とディレイ音のバランスを設定します。
X-PAD（パラメーター 4）	ディレイタイムを設定します。

ECHO[1] [2]

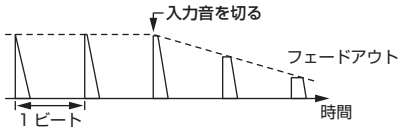
[**BEAT ◄, ►**] ボタンで設定した拍の倍率に合わせてディレイ音を減衰させながら数回出力します。
1/1 ビートのエコー音では入力音を切ったあとも曲のテンポに合わせてディレイ音がフェードアウトします。



BEAT ◄, ► ボタン（パラメーター 1）	BPM の 1 拍の時間に対して **1/8** ～ **16/1** のディレイタイムを設定します。
TIME ツマミ（パラメーター 2）	ディレイタイムを設定します。 **1** ～ **4000** (ms)
LEVEL/DEPTH ツマミ（パラメーター 3）	原音とエコー音のバランスを設定します。
X-PAD（パラメーター 4）	ディレイタイムを設定します。

SPIRAL[1] [2]

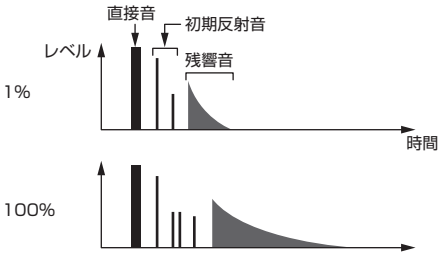
入力音に残響効果を加えます。
ディレイタイムを変化させたとき、同時に音程も変化します。



BEAT ◄, ► ボタン（パラメーター 1）	BPM の 1 拍の時間に対して **1/8** ～ **16/1** のディレイタイムを設定します。
TIME ツマミ（パラメーター 2）	ディレイタイムを設定します。 **10** ～ **4000** (ms)
LEVEL/DEPTH ツマミ（パラメーター 3）	原音とエフェクト音のバランスと量的パラメーターを設定します。
X-PAD（パラメーター 4）	ディレイタイムを設定します。

REVERB[1] [2]

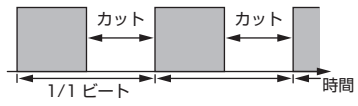
入力音に残響効果を加えます。



BEAT ◄, ► ボタン（パラメーター 1）	残響効果の程度を **1** ～ **100** % の間で設定します。
TIME ツマミ（パラメーター 2）	残響効果の程度を設定します。 **1** ～ **100** (%)
LEVEL/DEPTH ツマミ（パラメーター 3）	原音とエフェクト音のバランスを設定します。
X-PAD（パラメーター 4）	フィルターのカットオフ周波数を設定します。

TRANS[1]

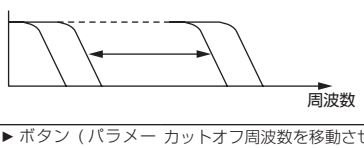
[**BEAT ◄, ►**] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて音をカットします。



BEAT ◄, ► ボタン（パラメーター 1）	BPM の 1 拍の時間に対して **1/16** ～ **16/1** のカット時間を設定します。
TIME ツマミ（パラメーター 2）	エフェクト時間を設定します。 **10** ～ **16000** (ms)
LEVEL/DEPTH ツマミ（パラメーター 3）	原音とエフェクト音のバランスを設定します。
X-PAD（パラメーター 4）	カット時間を設定します。

FILTER[1]

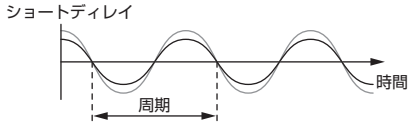
[**BEAT ◄, ►**] ボタンで設定した拍の倍率に合わせてフィルターのカットオフ周波数が変化します。



BEAT ◄, ► ボタン（パラメーター 1）	カットオフ周波数を移動させる周期を BPM の 1 拍の時間に対して **1/4** ～ **64/1** の時間で設定します。
TIME ツマミ（パラメーター 2）	カットオフ周波数が移動する周期を設定します。 **10** ～ **32000** (ms)
LEVEL/DEPTH ツマミ（パラメーター 3）	右に回すほど効果が強調されます。
X-PAD（パラメーター 4）	カットオフ周波数を移動させる周期を細かく揺らします。

FLANGER[1]

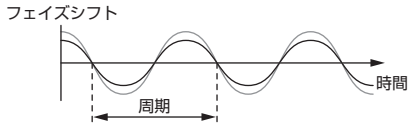
[**BEAT** ◄, ►] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて 1 周期のフランジャー効果を作り出します。



BEAT ◄, ► ボタン（パラメーター 1）	BPM の 1 拍の時間に対して **1/4** ～ **64/1** のエフェクト時間を設定します。
TIME ツマミ（パラメーター 2）	フランジャー効果が移動する周期を設定します。 **10** ～ **32000** (ms)
LEVEL/DEPTH ツマミ（パラメーター 3）	右に回すほど効果が強調されます。 左に回しきると原音だけ出力されます。
X-PAD（パラメーター 4）	フランジャー効果が移動する周期を細かく揺らします。

PHASER[1]

[**BEAT** ◄, ►] ボタンで設定した拍の倍率に合わせてフェイザー効果が変化します。



BEAT ◄, ► ボタン（パラメーター 1）	フェイザー効果を移動させる周期を BPM の 1 拍の時間に対して **1/4** ～ **64/1** の時間で設定します。
TIME ツマミ（パラメーター 2）	フェイザー効果が移動する周期を設定します。 **10** ～ **32000** (ms)
LEVEL/DEPTH ツマミ（パラメーター 3）	右に回すほど効果が強調されます。 左に回しきると原音だけ出力されます。
X-PAD（パラメーター 4）	フェイザー効果が移動する周期を細かく揺らします。

ROBOT[1]

原音をロボットが発しているような音に変化させます。

BEAT ◄, ► ボタン（パラメーター 1）	エフェクト音の程度を設定します。 **-100** ～ **100** (%)
TIME ツマミ（パラメーター 2）	エフェクト音の程度を設定します。 **-100** ～ **100** (%)
LEVEL/DEPTH ツマミ（パラメーター 3）	原音とエフェクト音のバランスを設定します。
X-PAD（パラメーター 4）	エフェクト音の程度を変化させます。

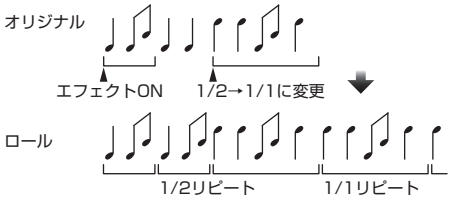
MELODIC[1] [2]

[**ON/OFF**] ボタンを押した時点の入力音の中音域を記録し、記録した音を入力音のレベルに合わせて出力します。

BEAT ◄, ► ボタン（パラメーター 1）	録音した音声の再生方法を設定します。
TIME ツマミ（パラメーター 2）	録音した音声の再生方法を設定します。
LEVEL/DEPTH ツマミ（パラメーター 3）	原音と録音した音声のバランスを設定します。
X-PAD（パラメーター 4）	録音した音声の再生方法を設定します。

SLIP ROLL[1] [2]

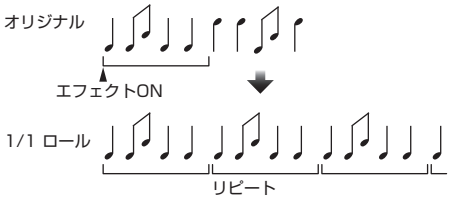
[**ON/OFF**] ボタンを押した時点の入力音を記録し、記録した音を [**BEAT** ◄, ►] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて繰り返し出力します。
エフェクト時間が変わると入力音を再び記録します。



BEAT ◄, ► ボタン（パラメーター 1）	BPM の 1 拍の時間に対して **1/16** ～ **16/1** のエフェクト時間を設定します。
TIME ツマミ（パラメーター 2）	エフェクト時間を設定します。 **10** ～ **4000** (ms)
LEVEL/DEPTH ツマミ（パラメーター 3）	原音と **ROLL** 音のバランスを設定します。
X-PAD（パラメーター 4）	エフェクト時間を設定します。

ROLL[1] [2]

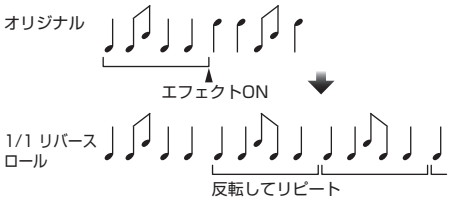
[**ON/OFF**] ボタンを押した時点の入力音を記録し、記録した音を [**BEAT** ◄, ►] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて繰り返し出力します。



BEAT ◄, ► ボタン（パラメーター 1）	BPM の 1 拍の時間に対して **1/16** ～ **16/1** のエフェクト時間を設定します。
TIME ツマミ（パラメーター 2）	エフェクト時間を設定します。 **10** ～ **4000** (ms)
LEVEL/DEPTH ツマミ（パラメーター 3）	原音と **ROLL** 音のバランスを設定します。
X-PAD（パラメーター 4）	エフェクト時間を設定します。

REV ROLL[1] [2]

[**ON/OFF**] ボタンを押した時点の入力音を記録し、記録した音を反転させ [**BEAT** ◄, ►] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて繰り返し出力します。



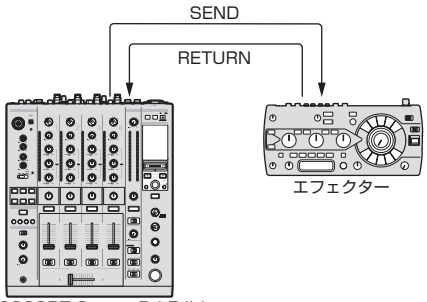
BEAT ◄, ► ボタン（パラメーター 1）	BPM の 1 拍の時間に対して **1/16** ～ **16/1** のエフェクト時間を設定します。
TIME ツマミ（パラメーター 2）	エフェクト時間を設定します。 **10** ～ **4000** (ms)
LEVEL/DEPTH ツマミ（パラメーター 3）	原音と **ROLL** 音のバランスを設定します。
X-PAD（パラメーター 4）	エフェクト時間を設定します。

SND/RTN（MIDI LFO）

お持ちの外部エフェクターなどを接続します。
[**LFO FORM**（**WAKE UP**）] ボタンを押して MIDI 対応のソフトウェアや機器などを MIDI 信号を使って制御できます。

❖ SND/RTN[1]

お持ちの外部エフェクターなどを接続します。



DJM-900SRT Serato DJ Edition

BEAT ◄, ► ボタン（パラメーター 1）	–
TIME ツマミ（パラメーター 2）	–
LEVEL/DEPTH ツマミ（パラメーター 3）	[**RETURN**] 端子に入力される音声レベルを調整します。
X-PAD（パラメーター 4）	–

❖ MIDI LFO

トラックのテンポに合わせて MIDI 信号 (0 ～ 127) の波形を変化させます。
[**LFO FORM**（**WAKE UP**）] ボタンを押すたびに MIDI 信号の波形パターンが切り換わります。

BEAT ◄, ► ボタン（パラメーター 1）	BPM の 1 拍の時間に対して **1/4** ～ **64/1** の波形出力時間を設定します。
TIME ツマミ（パラメーター 2）	波形出力時間を設定します。
LEVEL/DEPTH ツマミ（パラメーター 3）	–
X-PAD（パラメーター 4）	MIDI 信号の波形パターンを変化させます。

- [**MIDI LFO**] を選んでいるときは [**RETURN**] 端子に接続されている外部エフェクターの音声は入力されません。

1 エフェクトチャンネル切換スイッチで [**CF.A**]、[**CF.B**] または [**MASTER**] を選んでいるとき、モニターしたいチャンネルの音声が [**MASTER**] チャンネルに出力されていない場合は [**BEAT EFFECTS**] の [**CUE**] ボタンを押してもエフェクト音はモニターできません。

2 エフェクトをオフにしているとき、[**BEAT EFFECTS**] の [**CUE**] ボタンを押してもエフェクト音はモニターできません。

MIDI アサインマップ

MIDI アサインマップ

- CC は、コントロールチェンジの省略形です。コントロールチェンジは、音質や音量などさまざまな制御情報を伝えるために使われる MIDI 信号の一種です。本機では、主にツマミやフェーダーを操作したときに 0 から 127 の値を CC として出力します。一部のボタンを操作したときも CC を出力します。
- Note は、ピアノやキーボードなどの鍵盤を押したり放したりするときに用いる MIDI 用語です。

カテゴリー	ボタン / ツマミ / スイッチ			MIDI アサイン	トリガー / トグル	送受信データ
	名称		種類			
CH1	入力切換スイッチ	DIGITAL	スイッチ	Note 050	[2]	OFF=0, ON=127
		CD/LINE	スイッチ	Note 051	[2]	OFF=0, ON=127
		PHONO	スイッチ	Note 052	[2]	OFF=0, ON=127
		USB DECK 3	スイッチ	Note 053	[2]	OFF=0, ON=127
	TRIM		ツマミ	CC 001	–	0 ～ 127
	HI		ツマミ	CC 002	–	0 ～ 127
	MID		ツマミ	CC 003	–	0 ～ 127
	LOW		ツマミ	CC 004	–	0 ～ 127
	COLOR		ツマミ	CC 005	–	0 ～ 127
	CUE		ボタン	CC 070	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
	チャンネルフェーダー		ツマミ	CC 017	–	0 ～ 127
	CROSS FADER ASSIGN		スイッチ	CC 065	–	0, 64, 127
CH2	入力切換スイッチ	DIGITAL	スイッチ	Note 054	[2]	OFF=0, ON=127
		CD/LINE	スイッチ	Note 055	[2]	OFF=0, ON=127
		PHONO	スイッチ	Note 056	[2]	OFF=0, ON=127
		USB DECK 1	スイッチ	Note 057	[2]	OFF=0, ON=127
	TRIM		ツマミ	CC 006	–	0 ～ 127
	HI		ツマミ	CC 007	–	0 ～ 127
	MID		ツマミ	CC 008	–	0 ～ 127
	LOW		ツマミ	CC 009	–	0 ～ 127
	COLOR		ツマミ	CC 010	–	0 ～ 127
	CUE		ボタン	CC 071	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
	チャンネルフェーダー		ツマミ	CC 018	–	0 ～ 127
	CROSS FADER ASSIGN		スイッチ	CC 066	–	0, 64, 127
CH3	入力切換スイッチ	DIGITAL	スイッチ	Note 058	[2]	OFF=0, ON=127
		CD/LINE	スイッチ	Note 059	[2]	OFF=0, ON=127
		PHONO	スイッチ	Note 060	[2]	OFF=0, ON=127
		USB DECK 2	スイッチ	Note 061	[2]	OFF=0, ON=127
	TRIM		ツマミ	CC 012	–	0 ～ 127
	HI		ツマミ	CC 014	–	0 ～ 127
	MID		ツマミ	CC 015	–	0 ～ 127
	LOW		ツマミ	CC 021	–	0 ～ 127
	COLOR		ツマミ	CC 022	–	0 ～ 127
	CUE		ボタン	CC 072	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
	チャンネルフェーダー		ツマミ	CC 019	–	0 ～ 127
	CROSS FADER ASSIGN		スイッチ	CC 067	–	0, 64, 127
CH4	入力切換スイッチ	DIGITAL	スイッチ	Note 062	[2]	OFF=0, ON=127
		CD/LINE	スイッチ	Note 063	[2]	OFF=0, ON=127
		PHONO	スイッチ	Note 064	[2]	OFF=0, ON=127
		USB DECK 4	スイッチ	Note 065	[2]	OFF=0, ON=127
	TRIM		ツマミ	CC 080	–	0 ～ 127
	HI		ツマミ	CC 081	–	0 ～ 127
	MID		ツマミ	CC 092	–	0 ～ 127
	LOW		ツマミ	CC 082	–	0 ～ 127
	COLOR		ツマミ	CC 083	–	0 ～ 127
	CUE		ボタン	CC 073	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
	チャンネルフェーダー		ツマミ	CC 020	–	0 ～ 127
	CROSS FADER ASSIGN		スイッチ	CC 068	–	0, 64, 127
クロスフェーダー	クロスフェーダー		ツマミ	CC 011	–	0 ～ 127
フェーダーカーブ	CH FADER (, ,)		スイッチ	CC 094	–	0, 64, 127
	CROSS FADER (, ,)		スイッチ	CC 095	–	0, 64, 127
マスター	MASTER LEVEL		ツマミ	CC 024	–	0 ～ 127
	BALANCE		ツマミ	CC 023	–	0 ～ 127
	CUE		ボタン	CC 074	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
	EQ CURVE (ISOLATOR, EQ)		スイッチ	CC 033	–	0, 127
BOOTH MONITOR	BOOTH MONITOR		ツマミ	CC 025	–	0 ～ 127
LINK	CUE		ボタン	CC 115	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
BEAT EFFECTS	◄		ボタン	CC 076	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
	►		ボタン	CC 077	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
	AUTO/TAP		ボタン	CC 069	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
	TAP		ボタン	CC 078	トリガーのみ	OFF=0, ON=127
	CUE		ボタン	CC 075	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127

カテゴリー	ボタン / ツマミ / スイッチ			MIDI アサイン	トリガー / トグル	送受信データ
	名称		種類			
BEAT EFFECTS	**EFFECT SELECT**	**DELAY**	スイッチ	CC 042	[2]	OFF=0, ON=127
		ECHO	スイッチ	CC 055	[2]	OFF=0, ON=127
		SPIRAL	スイッチ	CC 043	[2]	OFF=0, ON=127
		REVERB	スイッチ	CC 054	[2]	OFF=0, ON=127
		TRANS	スイッチ	CC 053	[2]	OFF=0, ON=127
		FILTER	スイッチ	CC 059	[2]	OFF=0, ON=127
		FLANGER	スイッチ	CC 050	[2]	OFF=0, ON=127
		PHASER	スイッチ	CC 057	[2]	OFF=0, ON=127
		ROBOT	スイッチ	CC 051	[2]	OFF=0, ON=127
		MELODIC	スイッチ	CC 061	[2]	OFF=0, ON=127
		SLIP ROLL	スイッチ	CC 058	[2]	OFF=0, ON=127
		ROLL	スイッチ	CC 046	[2]	OFF=0, ON=127
		REV ROLL	スイッチ	CC 047	[2]	OFF=0, ON=127
		SND/RTN (**MIDI LFO**)	スイッチ	CC 062	[2]	OFF=0, ON=127
	CH SELECT	**CH1**	スイッチ	CC 034	[2]	OFF=0, ON=127
		CH2	スイッチ	CC 035	[2]	OFF=0, ON=127
		CH3	スイッチ	CC 036	[2]	OFF=0, ON=127
		CH4	スイッチ	CC 037	[2]	OFF=0, ON=127
		MIC	スイッチ	CC 038	[2]	OFF=0, ON=127
		CF.A	スイッチ	CC 039	[2]	OFF=0, ON=127
		CF.B	スイッチ	CC 040	[2]	OFF=0, ON=127
		MASTER	スイッチ	CC 041	[2]	OFF=0, ON=127
	MIDI LFO		ツマミ	CC 118	–	0 ～ 127
	QUANTIZE		ボタン	Note 118	トリガー / トグル	–
BEAT EFFECTS	**TIME**		スイッチ	CC 013	–	–
			スイッチ	CC 045	–	**TIME** の値（**FLANGER**、**PHASER**、または **FILTER** を選んでいるときは半分の値になります。マイナスの値を選んでいるときはプラスの値になります。）
	LEVEL/DEPTH		ツマミ	CC 091	–	0 ～ 127
	X-PAD		ツマミ	CC 116	–	[**X-PAD**] の位置情報を送信します。
	ON/OFF **X-PAD** (タッチ) • BEAT EFFECT で [**SND/RTN** (**MIDI LFO**)] 以外のエフェクトを選んでいるとき		ボタン	CC 114	[2]	OFF=0, ON=127
	ON/OFF **X-PAD** (タッチ) • BEAT EFFECT で [**SND/RTN** (**MIDI LFO**)] を選んでいるとき		ボタン	CC 064	[2]	OFF=0, ON=127
MIC	**HI**		ツマミ	CC 030	–	0 ～ 127
	LOW		ツマミ	CC 031	–	0 ～ 127
SOUND COLOR FX	**NOISE**		ボタン	CC 085	トリガー / トグル [1]	OFF=0, ON=127
	SPACE		ボタン	CC 105	トリガー / トグル [1]	OFF=0, ON=127
	GATE/COMP		ボタン	CC 106	トリガー / トグル [1]	OFF=0, ON=127
	DUB ECHO		ボタン	CC 107	トリガー / トグル [1]	OFF=0, ON=127
	CRUSH		ボタン	CC 086	トリガー / トグル [1]	OFF=0, ON=127
	FILTER		ボタン	CC 087	トリガー / トグル [1]	OFF=0, ON=127
Fader Start	**Fader Start 1**		ボタン	CC 088	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
	Fader Start 2		ボタン	CC 089	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
	Fader Start 3		ボタン	CC 090	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
	Fader Start 4		ボタン	CC 093	トリガー / トグル	OFF=0, ON=127
HEADPHONES	**MIXING**		ツマミ	CC 027	–	0 ～ 127
	LEVEL		ツマミ	CC 026	–	0 ～ 127
	Timing Clock		–	タイミングクロック	–	–
Fader Start 操作 [3]	チャンネルフェーダー 1 またはクロスフェーダー			Note 102	–	BACK CUE=0, PLAY=127
	チャンネルフェーダー 2 またはクロスフェーダー			Note 103	–	BACK CUE=0, PLAY=127
	チャンネルフェーダー 3 またはクロスフェーダー			Note 104	–	BACK CUE=0, PLAY=127
	チャンネルフェーダー 4 またはクロスフェーダー			Note 105	–	BACK CUE=0, PLAY=127
MIDI	**START**		ボタン	スタート	–	–
	STOP		ボタン	ストップ	–	–

[1] あるボタンを ON にすることにより、別のボタンが ON から OFF に切り換わるとき、2 つのボタンから MIDI メッセージの ON と OFF をそれぞれ送信します。
OFF に切り換わるボタンがないときは、押したボタンから MIDI メッセージの ON だけ送信します。

[2] あるポジションから別のポジションに切り換わるとき、2 つのポジションから MIDI メッセージの ON と OFF をそれぞれ送信します。
— [**START**/**STOP**] ボタンを 1 秒以上続けて押すと、ボタン、フェーダーまたはツマミの位置に応じた MIDI メッセージを一括で送信します (スナップショット)。
MIDI スナップショットは MIDI スタート /MIDI ストップ以外のすべての MIDI メッセージを送信します。

[3] [**CROSS FADER ASSIGN** (**A**, **THRU**, **B**)] 切換スイッチの設定により、操作が異なります。
— [**CROSS FADER ASSIGN** (**A**, **THRU**, **B**)] 切換スイッチを [**THRU**] に設定している場合：[**FADER START**] ボタンが [**ON**] でチャンネルフェーダーを一番手前から奥側へ動かしたときと、一番手前に戻したときに MIDI メッセージを送信します。
— [**CROSS FADER ASSIGN** (**A**, **THRU**, **B**)] 切換スイッチを [**A**] に設定している場合：[**FADER START**] ボタンが [**ON**] でクロスフェーダーを [**B**] 側の端から動かしたときと、[**B**] 側の端に戻したときに MIDI メッセージを送信します。
— [**CROSS FADER ASSIGN** (**A**, **THRU**, **B**)] 切換スイッチを [**B**] に設定している場合：[**FADER START**] ボタンが [**ON**] でクロスフェーダーを [**A**] 側の端から動かしたときと、[**A**] 側の端に戻したときに MIDI メッセージを送信します。

設定を変更する

1 [ON/OFF (UTILITY)] ボタンを 1 秒以上押す
[**USER SETUP**] モード設定画面が表示されます。
- [**CLUB SETUP**] モード設定画面を表示するときは、いったん本機の電源をオフし、[**ON/OFF** (**UTILITY**)] ボタンを押しながら [**POWER**] ボタンを押します。

2 [BEAT ◄, ►] ボタンを押す
設定項目を選びます。

3 [TAP] ボタンを押す
設定項目の設定値変更画面に切り換わります。

4 [BEAT ◄, ►] ボタンを押す
設定値を変更します。

5 [TAP] ボタンを押す
設定値を決定します。
元の画面に戻ります。
- 設定値を変更しないまま元の画面に戻るときは [**QUANTIZE**] ボタンを押します。

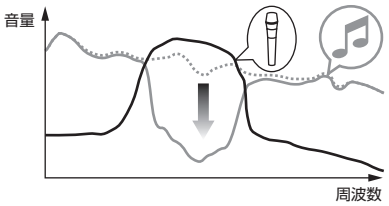
6 [ON/OFF (UTILITY)] ボタンを押す
[**USER SETUP**] モード設定画面を閉じます。
- [**CLUB SETUP**] モード設定画面を閉じるときは、[**POWER**] ボタンを押して本機の電源をオフにします。

オートスタンバイ機能について

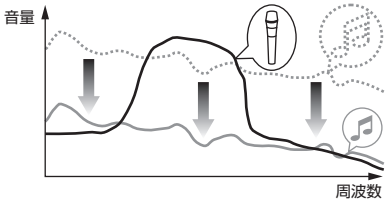
[**Auto Standby**] を [**ON**] に設定しているとき、以下の条件をすべて満たしたまま 4 時間を過ぎると自動的にスタンバイ状態になります。
— 本機のボタンやツマミなどを操作していない。
— 本機の入力端子に **–10 dB** 以上の音声信号が入力されない。
— PRO DJ LINK 接続していない。
- [**LFO FORM** (**WAKE UP**)] ボタンを押すとスタンバイ状態が解除されます。
- 本機は、オートスタンバイ機能をオンに設定して出荷しています。オートスタンバイ機能をお使いにならないときは、[**Auto Standby**] を [**OFF**] に設定してください。

トークオーバー機能について

トークオーバー機能には、以下 2 つのモードがあります。
— [**ADV**](アドバンスド・トークオーバー) : [**MIC**] チャンネル以外の音声が [**Talk Over LEVEL**] の設定値に従って、中音域だけ減衰して出力されます。



— [**NOR**](ノーマルトークオーバー) : [**MIC**] チャンネル以外の音声が、[**Talk Over LEVEL**] の設定値に従って減衰して出力されます。



設定項目一覧

*：お買い上げ時の設定

モード	設定項目	画面表示	設定値	説明
USER SETUP	Fader Start	F.S.	ON、OFF*	フェーダースタート機能を一括でオン / オフします。
	MIDI CH	MIDI CH	1* ～ 16	MIDI チャンネルを設定します。
	MIDI Button Type	MIDI BT	TGL*、TRG	MIDI 信号の送信の仕方を [**TGL** (**TOGGLE**)] または [**TRG** (**TRIGGER**)] から選びます。
	Talk Over Mode	TLK MOD	ADV*、NOR	トークオーバー機能のモードを [**ADV**(**ADVANCED**)] または [**NOR**(**NORMAL**)] から選びます。
	Talk Over LEVEL	TLK LVL	–6 dB、–12 dB、–18 dB*、–24 dB	トークオーバー機能の音声減衰レベルを設定します。
CLUB SETUP	Digital Master Out Level	DOUT LV	–19 dB*、–15 dB、–10 dB、–5 dB	[**DIGITAL MASTER OUT**] 端子から出力される音声の最大音声レベルを設定します。[1]
	Digital Master Out Sampling Rate	DOUT FS	48 kHz、96 kHz*	デジタル信号のサンプリングレートを設定します。
	MASTER ATT.	MST ATT	–6 dB、–3 dB、0 dB*	[**MASTER1**] 端子および [**MASTER2**] 端子から出力される音声の減衰レベルを設定します。
	Auto Standby	AUTOSTB	ON*、OFF	オートスタンバイ機能をオン / オフします。
	Mic Output To Booth Monitor	MIC BTH	ON*、OFF	[**BOOTH**] 端子からマイク音声を出力する / 出力しないを設定します。
	PC UTILITY	PC UTLY	ON、OFF*	USB ケーブルを接続したとき、コンピューターの設定ユーティリティソフトウェアを自動起動する / 自動起動しないを設定します。
	Peak Limiter	PKLIMIT	ON*、OFF	マスター出力の急激で不快なデジタルクリップの発生を緩和します。
	Factory Reset	INITIAL	YES、NO*	すべての設定を初期設定値に戻します。

[1] マスターレベルインジケーターが一番上まで点灯していなくても、出力音声が歪むことがありますのでご注意ください。

設定ユーティリティについて

設定ユーティリティを使って以下の内容を確認および設定できます。
— 本機の入力切換スイッチの状態を確認する
— 本機からコンピューターへの音声データ出力を設定する
— バッファサイズを調整する (Windows ASIO 使用時)
— ドライバソフトウェアのバージョンを確認する

設定ユーティリティを表示する

Windows のとき

[**スタート**] メニュー >[**すべてのプログラム**]>[**Pioneer**]>[**DJM-900SRT**]>[**DJM-900SRT 設定ユーティリティ**] をクリックする

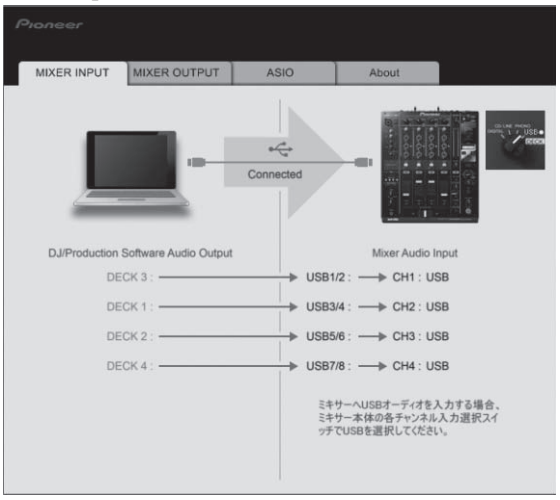
Mac OS X のとき

[**Macintosh HD**] アイコン >[**Application**]>[**Pioneer**]>[**DJM-900SRT**]>[**DJM-900SRT 設定ユーティリティ**] をクリックする

本機の入力切換スイッチの状態を確認する

あらかじめ設定ユーティリティを表示してください。

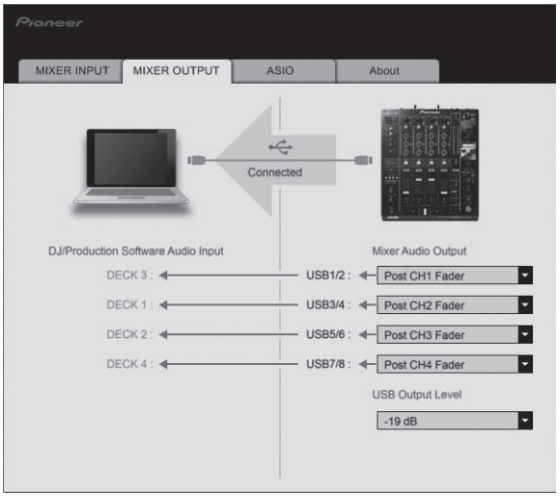
[MIXER INPUT] タブをクリックする



本機からコンピューターへの音声データ出力を設定する

本機を既定のオーディオデバイスとして使用している Serato DJ が起動しているときは、Serato DJ 側で音声データの出力を設定してください。
あらかじめ設定ユーティリティを表示してください。

1 [MIXER OUTPUT] タブをクリックする



2 [Mixer Audio Output] のプルダウンメニューをクリックする

本機内部の音声信号の流れの中から、コンピューターへ出力する音声データを選んで設定します。

CH1	CH2	CH3	CH4
CH1 Control Tone PHONO[1]	CH2 Control Tone PHONO[1]	CH3 Control Tone PHONO[1]	CH4 Control Tone PHONO[1]
CH1 Control Tone CD/LINE[1]	CH2 Control Tone CD/LINE[1]	CH3 Control Tone CD/LINE[1]	CH4 Control Tone CD/LINE[1]
CH1 Control Tone DIGITAL[1]	CH2 Control Tone DIGITAL[1]	CH3 Control Tone DIGITAL[1]	CH4 Control Tone DIGITAL[1]
Post CH1 Fader[2]	Post CH2 Fader[2]	Post CH3 Fader[2]	Post CH4 Fader[2]
Cross Fader A[2]	Cross Fader A[2]	Cross Fader A[2]	Cross Fader A[2]
Cross Fader B[2]	Cross Fader B[2]	Cross Fader B[2]	Cross Fader B[2]
MIC	MIC	MIC	MIC
MIX (REC OUT)[2]	MIX (REC OUT)[2]	MIX (REC OUT)[2]	MIX (REC OUT)[2]

1 [**USB Output Level**] の設定に関係なく本機に入力された音量のまま出力されます。
2 録音用途以外で使うときは、音声のループが発生しないよう DJ アプリケーションの設定に注意してください。音声のループが発生すると、意図していない音量の音声が入出力される可能性があります。

3 [USB Output Level] のプルダウンメニューをクリックする

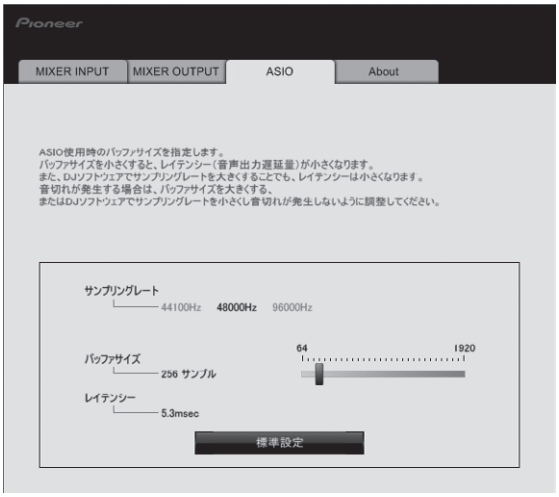
本機から出力される音声データの音量を調節します。

- [**USB Output Level**] の設定はすべての音声データに対して共通です。ただし、手順 2 の表の 1 を選んでいるときは本機に入力された音量のまま出力されます。
- DJ ソフトウェアの音量調節だけで十分な音量が得られないときは、[**USB Output Level**] を変更して本機から出力される音声データの音量を調節してください。音量を上げすぎると音声が歪むことがありますのでご注意ください。

バッファサイズを調整する (Windows ASIO 使用時)

本機を既定のオーディオデバイスとして使っているアプリケーション (DJ ソフトウェアなど) が起動しているときは、そのアプリケーションを終了させてからバッファサイズを調整してください。
あらかじめ設定ユーティリティを表示してください。

[ASIO] タブをクリックする

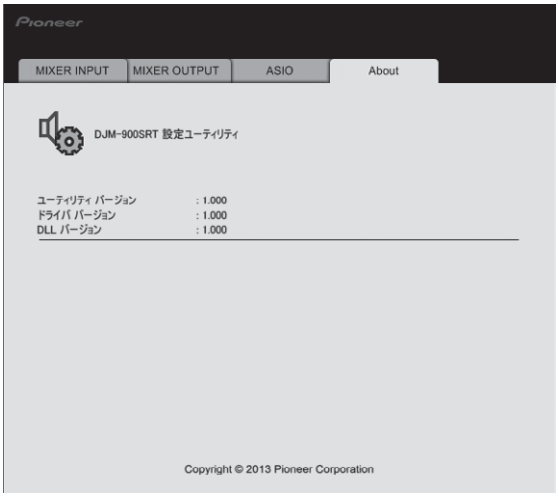


- バッファサイズを大きくすると、音声データの脱落 (音とぎれ) などが生じにくくなりますが、音声データの伝送遅延 (レイテンシー) によるタイムラグが増大します。

ドライバソフトウェアのバージョンを確認する

あらかじめ設定ユーティリティを表示してください。

[About] タブをクリックする



ドライバソフトウェアの最新情報を確認する

本機の専用ドライバソフトウェアの最新情報については、下記ホームページを参照してください。
http://pioneerdj.com/support/

- 1 台のコンピューターに本機を複数台接続したときは、動作を保証できません。

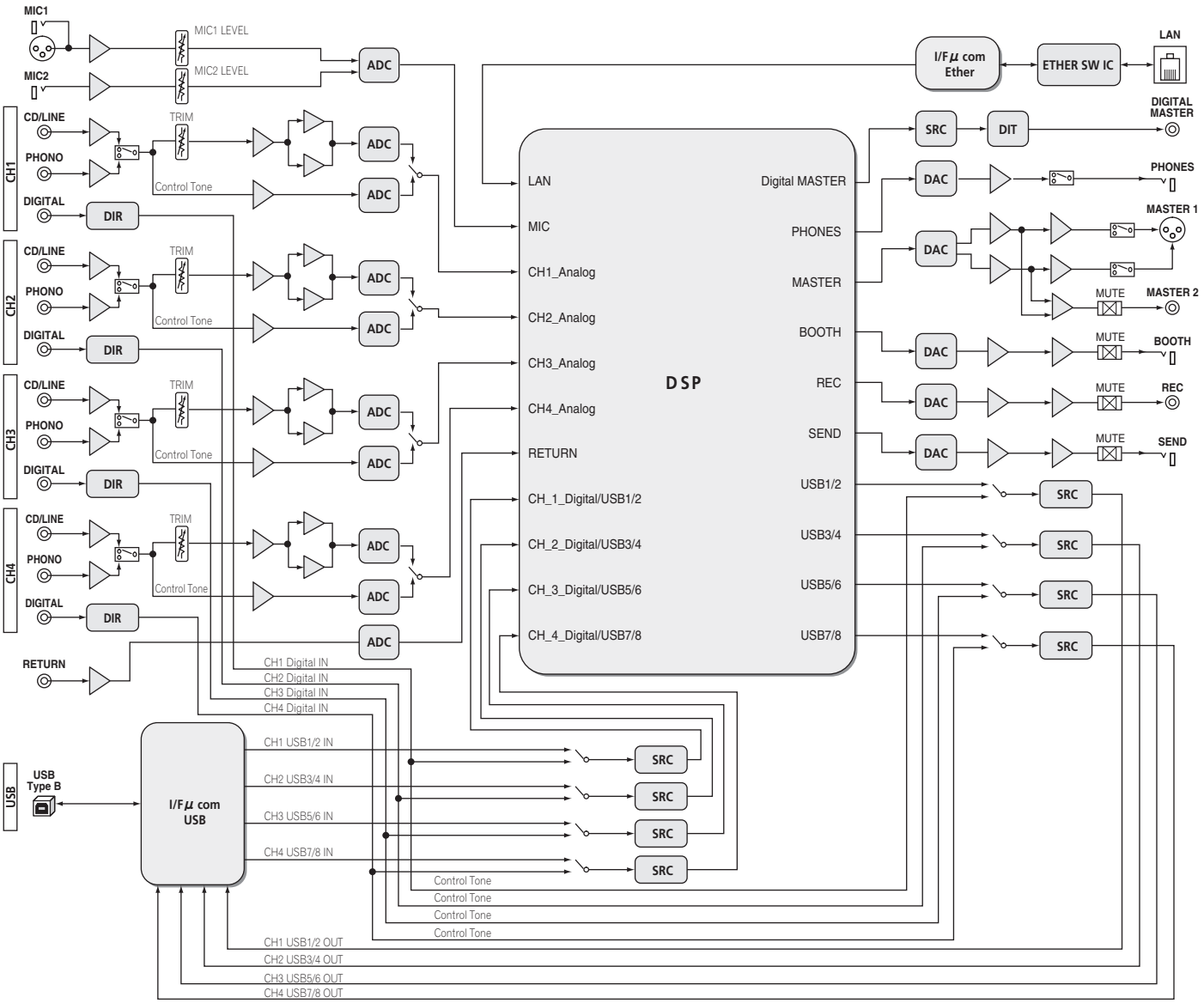
その他

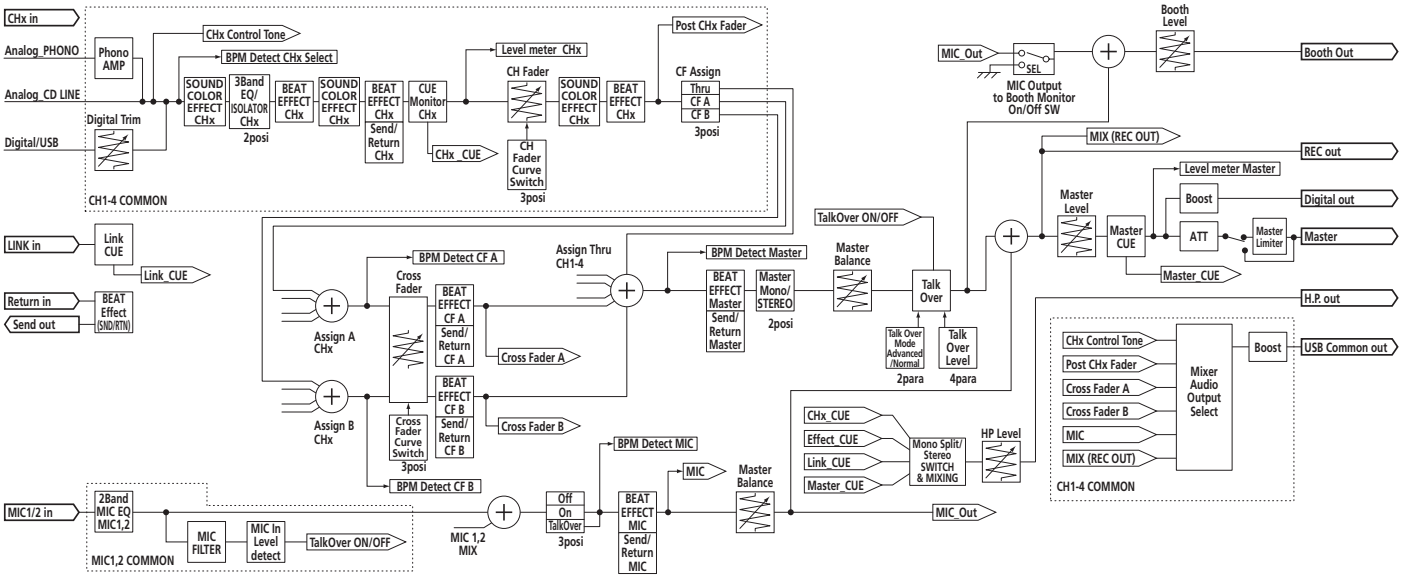
故障かな？と思ったら

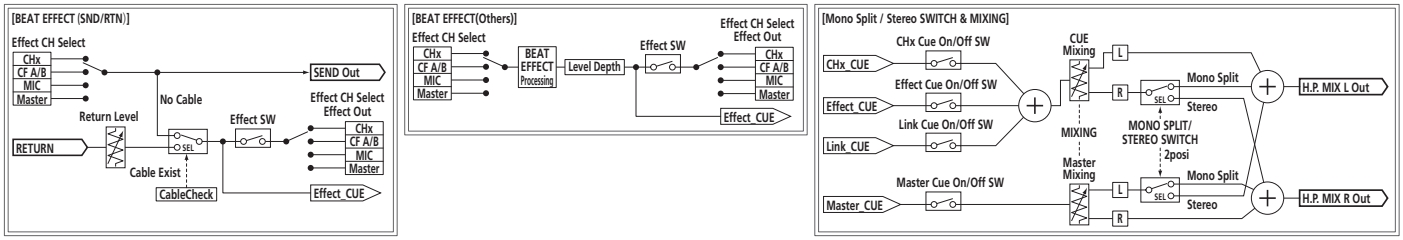
- 故障かな？と思ったら、下記の項目を確認してください。また、本機と接続している機器もあわせて確認してください。それでも正常に動作しないときは、27ページ の「保証とアフターサービス」をお読みのうえ、販売店にお問い合わせください。
- 静電気など、外部からの影響により本機が正常に動作しないことがあります。このようなときは、電源コードを一度抜いて差し込み直すことで正常に動作することがあります。

こんなときは	ここを確認してください	対応の仕方
電源が入らない。	電源コードが正しく接続されていますか？	電源コードをコンセントへ接続してください。
音が出ない、または音が小さい。	入力切換スイッチの位置が正しく設定されていますか？	入力切換スイッチを切り換えて、チャンネルの入力ソースを切り換えてください。(13ページ)
	接続ケーブルが正しく接続されていますか？	接続ケーブルを正しく接続してください。(10ページ)
	端子やプラグが汚れていませんか？	端子やプラグの汚れを拭き取ってから接続してください。
	[**MASTER ATT.**] が [**–6 dB**] などに設定されていませんか？	[**USER SETUP**] 画面で [**MASTER ATT.**] を切り換えてください。(23ページ)
デジタル音声が出力できない。	デジタル音声出力のサンプリング周波数 (fs) が、接続機器の仕様と合っていますか？	[**CLUB SETUP**] 画面で [**Digital Master Out Sampling Rate**] を接続機器の仕様に合わせて設定してください。(23ページ)
音が歪む。	[**MASTER**] チャンネルから出力されている音声レベルは適切に設定されていますか？	マスターチャンネルレベルインジケーターの [**0 dB**] 付近がピークレベルで点灯するように [**MASTER LEVEL**] ツマミを調整してください。(13ページ)
		[**MASTER ATT.**] を [**–3 dB**] または [**–6 dB**] に設定してください。(23ページ)
	各チャンネルに入力されている音声レベルは適切に設定されていますか？	チャンネルレベルインジケーターの [**0 dB**] 付近がピークレベルで点灯するように [**TRIM**] ツマミを調整してください。(13ページ)
クロスフェードできない。	[**CROSS FADER ASSIGN** (**A**, **THRU**, **B**)] 切換スイッチが正しく設定されていますか？	各チャンネルの [**CROSS FADER ASSIGN** (**A**, **THRU**, **B**)] 切換スイッチを正しく設定してください。(13ページ)
DJ プレーヤーのフェーダースタートができない。	[**FADER START**] が [**OFF**] に設定されていませんか？	[**USER SETUP**] 画面で [**FADER START**] を [**ON**] に設定してください。(23ページ)
	[**LINK**] 端子と DJ プレーヤーが正しく接続されていますか？	[**LINK**] 端子と DJ プレーヤーを LAN ケーブルを使って正しく接続してください。(10ページ)
	音声ケーブルが正しく接続されていますか？	本機の音声入力端子と DJ プレーヤーの音声出力端子を音声ケーブルで接続してください。(10ページ)
	DJ プレーヤーのプレーヤー番号は正しく設定されていますか？	DJ プレーヤーのプレーヤー番号は、音声ケーブルを接続したチャンネルと同じ番号に設定してください。
[**BEAT EFFECTS**] が効かない。	エフェクトチャンネル切換スイッチが正しく設定されていますか？	エフェクトチャンネル切換スイッチを回して、エフェクトを加えたいチャンネルを選んでください。
[**SOUND COLOR FX**] が効かない。	[**COLOR**] ツマミを適切な位置に設定していますか？	[**COLOR**] ツマミを左右に回してください。(15ページ)
外部エフェクターが効かない。	[**BEAT EFFECTS**] の [**ON/OFF**] ボタンが [**ON**] に設定されていますか？	[**BEAT EFFECTS**] の [**ON/OFF**] ボタンを押して [**SND/RTN**] を [**ON**] にしてください。(15ページ)
	[**SEND**] 端子および [**RETURN**] 端子に外部エフェクターが正しく接続されていますか？	[**SEND**] 端子および [**RETURN**] 端子に外部エフェクターを接続してください。(10ページ)
外部エフェクターの音が歪む。	外部エフェクターの音声出力レベルは適切に設定されていますか？	外部エフェクターの音声出力レベルを調整してください。
テンポ (**BPM**) が測定できない、またはテンポ (**BPM**) の測定値がおかしい。	音声入力レベルが高すぎませんか？ または音声入力レベルが低すぎませんか？	チャンネルレベルインジケーターの [**0 dB**] 付近がピークレベルで点灯するように [**TRIM**] ツマミを調整してください。(13ページ)
		曲によってはテンポ (**BPM**) が測定できない場合があります。[**TAP**] ボタンを使って手動でテンポを入力してください。(15ページ)
測定したテンポ (**BPM**) の値が CD の記載値と異なる。	–	**BPM** の測定法が違うため、多少異なった値を示すことがあります。
MIDI シーケンサーが同期しない。	MIDI シーケンサーのシンクモードはスレーブに設定されていますか？	MIDI シーケンサーのシンクモードをスレーブに設定してください。
	お使いの MIDI シーケンサーは MIDI タイミングクロックに対応していますか？	MIDI タイミングクロックに対応していない MIDI シーケンサーは同期できません。
MIDI コントロールできない。	MIDI がオンになっていますか？	[**MIDI**] の [**ON/OFF**] ボタンを押してください。(16ページ)
	MIDI 設定が正しく設定されていますか？	本機で DJ ソフトウェアを操作するときは、本機の MIDI メッセージをお使いの DJ ソフトウェアにアサインする必要があります。アサイン方法については、お使いの DJ ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
コンピューターに接続しても本機が認識されない。 USB インジケーターが消灯または点滅している。	コンピューターにドライバソフトウェアが正しくインストールされていますか？	ドライバソフトウェアをインストールしてください。インストール済みのときは、再度インストールしてください。(6ページ)
コンピューターの音声が本機から出力されない。	本機とコンピューターが正しく接続されていますか？	本機とコンピューターは付属の USB ケーブルで直接接続してください。(11ページ)
	音声出力デバイス設定が正しく設定されていますか？	音声出力デバイス設定で本機を選んでください。お使いのアプリケーションの設定方法については、お使いのアプリケーションの取扱説明書をご覧ください。
	入力切換スイッチの位置が正しく設定されていますか？	入力切換スイッチを [**USB**] の位置に設定してください。(13ページ)
[**BEAT EFFECTS**] の [**CUE**] ボタンを押してもエフェクト音がモニターできない。	–	[**ECHO**]、[**REVERB**]、[**ROLL**]、[**SLIP ROLL**]、および [**REV ROLL**] のエコー音を発生する回路はエフェクト回路より後ろに配置されているため、エフェクト音はモニターできません。故障ではありません。
アナログプレーヤーを本機の [**PHONO**] 端子に接続すると音が歪む。 また、[**TRIM**] ツマミを回してもチャンネルレベルインジケーターの点灯が変わらない。	フォノイコライザー内蔵のアナログプレーヤーを接続していませんか？	フォノイコライザー内蔵のアナログプレーヤーは [**CD/LINE**] 端子に接続してください。(10ページ)
		フォノイコライザー内蔵のアナログプレーヤーに PHONO/LINE 切換スイッチがあるときは、PHONO に切り換えてください。
	アナログプレーヤーと本機の間にコンピューター用のオーディオインターフェースが接続されていませんか？	コンピューター用のオーディオインターフェースの出力がラインレベルのときは、[**CD/LINE**] 端子に接続してください。(10ページ)
		アナログプレーヤーに PHONO/LINE 切換スイッチがあるときは、PHONO に切り換えてください。

ブロックダイヤグラム


MIC1
MIC2
MIC1 LEVEL
MIC2 LEVEL
ADC
I/Fμ com Ether
ETHER SW IC
LAN
DIGITAL MASTER
CH1
CH2
CH3
CH4
CD/LINE
PHONO
DIGITAL
TRIM
Control Tone
DIR
SRC
DIT
DAC
PHONES
MASTER 1
MASTER 2
MUTE
BOOTH
REC
SEND
LAN
MIC
CH1_Analog
CH2_Analog
CH3_Analog
CH4_Analog
RETURN
CH_1_Digital/USB1/2
CH_2_Digital/USB3/4
CH_3_Digital/USB5/6
CH_4_Digital/USB7/8
DSP
Digital MASTER
PHONES
MASTER
BOOTH
REC
SEND
USB1/2
USB3/4
USB5/6
USB7/8
CH1 Digital IN
CH2 Digital IN
CH3 Digital IN
CH4 Digital IN
USB
USB Type B
I/Fμ com USB
CH1 USB1/2 IN
CH2 USB3/4 IN
CH3 USB5/6 IN
CH4 USB7/8 IN
CH1 USB1/2 OUT
CH2 USB3/4 OUT
CH3 USB5/6 OUT
CH4 USB7/8 OUT


CHx in
Analog_PHONO
Analog_CD LINE
Digital/USB
Phono AMP
Digital Trim
CHx Control Tone
BPM Detect CHx Select
SOUND COLOR EFFECT CHx
3Band EQ/ ISOLATOR CHx
2posi
BEAT EFFECT CHx
Send/ Return CHx
CUE Monitor CHx
CHx_CUE
Level meter_CHx
CH Fader
CH Fader Curve Switch
3posi
Post CHx Fader
CF Assign
Thru
CF A
CF B
CH1-4 COMMON
LINK in
Link CUE
Link_CUE
Return in
Send out
BEAT Effect (SND/RTN)
BPM Detect CF A
Cross Fader
Assign A CHx
Assign B CHx
Cross Fader A
Cross Fader B
Cross Fader Curve Switch
BPM Detect CF B
Assign Thru CH1-4
BPM Detect Master
Master Mono/ STEREO
Master Balance
TalkOver ON/OFF
Talk Over
Talk Over Mode Advanced /Normal
2para
Talk Over Level
4para
MIC_Out
SEL
MIC Output to Booth Monitor On/Off SW
Booth Level
Booth Out
MIX (REC OUT)
REC out
Level meter Master
Master Level
Master CUE
Boost
ATT
Digital out
Master Limiter
Master
Master_CUE
H.P. out
CHx Control Tone
Post CHx Fader
Cross Fader A
Cross Fader B
MIC
MIX (REC OUT)
Mixer Audio Output Select
Boost
USB Common out
CH1-4 COMMON
CHx_CUE
Effect_CUE
Link_CUE
Master_CUE
Mono Split/ Stereo SWITCH & MIXING
HP Level
MIC1/2 in
2Band MIC EQ MIC1,2
MIC FILTER
MIC In Level detect
TalkOver ON/OFF
MIC1,2 COMMON
MIC 1,2 MIX
Off On TalkOver
3posi
BPM Detect MIC
MIC
BEAT EFFECT MIC
Send/ Return MIC
Master Balance
MIC_Out


[BEAT EFFECT (SND/RTN)]
Effect CH Select
CHx
CF A/B
MIC
Master
SEND Out
No Cable
Return Level
RETURN
SEL
Cable Exist
CableCheck
Effect SW
Effect CH Select Effect Out
Effect_CUE
[BEAT EFFECT(Others)]
Effect CH Select
BEAT EFFECT Processing
Level Depth
Effect SW
Effect CH Select Effect Out
[Mono Split / Stereo SWITCH & MIXING]
CHx Cue On/Off SW
Effect Cue On/Off SW
Link Cue On/Off SW
Master Cue On/Off SW
CUE Mixing
MIXING
Master Mixing
L
R
Mono Split
Stereo
MONO SPLIT/ STEREO SWITCH
2posi
H.P. MIX L Out
H.P. MIX R Out

マニュアルを入手する

各操作説明書は PDF 形式のファイルで作成されている場合があります。PDF 形式 のファイルをご覧いただくには、Adobe® Reader® をインストールする必要があります。Adobe Reader をお持ちでないお客様は CD-ROM のメニュー画面のダウンロードリンクからインストールを行ってください。

最新版の取扱説明書 / クイックスタートガイド Serato DJ 編をダウンロードする

1 CD-ROM をコンピューターの CD ドライブに挿入する

CD-ROM のメニューが表示されます。
CD-ROM を挿入しても CD-ROM のメニューが表示されないときは、以下に従って操作してください。

- Windows のとき
  [**スタート**] メニューの [**コンピューター** (または**マイコンピュータ**)] から CD ドライブを開き [**CD_menu.exe**] のアイコンをダブルクリックしてください。
- Mac OS X のとき
  Finder で直接 [**CD_menu.app**] のアイコンをダブルクリックしてください。

2 CD-ROM のメニューが表示されたら、[DJM-900SRT: 取扱説明書をダウンロードする（PDF ファイル)] を選んでから [開始] をクリックする

3「接続にはインターネット環境が必要です。インターネットに接続しますか？」が表示されるので、[はい] をクリックする

ウェブブラウザが起動し、Pioneer DJ サポートサイトが表示されます。
http://pioneerdj.com/support/

4 Pioneer DJ サポートサイトで「DJM-900SRT」の「取扱説明書」をクリックする

5 ダウンロードページの中から必要な書類の言語をクリックする

取扱説明書 / クイックスタートガイド Serato DJ 編のダウンロードが始まります。

Serato DJ のソフトウェアマニュアルをダウンロードする

1 CD-ROM をコンピューターの CD ドライブに挿入する

CD-ROM のメニューが表示されます。
CD-ROM を挿入しても CD-ROM のメニューが表示されないときは、以下に従って操作してください。

- Windows のとき
  [**スタート**] メニューの [**コンピューター** (または**マイコンピュータ**)] から CD ドライブを開き [**CD_menu.exe**] のアイコンをダブルクリックしてください。
- Mac OS X のとき
  Finder で直接 [**CD_menu.app**] のアイコンをダブルクリックしてください。

2 CD-ROM のメニューが表示されたら、[Serato DJ: ソフトウェア マニュアルをダウンロードする (PDF ファイル)] を選んでから [開始] をクリックする

3「接続にはインターネット環境が必要です。インターネットに接続しますか？」が表示されるので、[はい] をクリックする

ウェブブラウザが起動し、Pioneer DJ サポートサイトが表示されます。

4 Pioneer DJ サポートサイトで [DJM-900SRT] の [ソフトウェア対応情報] をクリックする

[**サポート情報**] が表示されます。

5 Serato DJ のダウンロードページへのリンクをクリックする

Serato DJ のダウンロードページが表示されます。
http://serato.com/

6「Serato.com」のユーザーアカウントでログインする

登録した E-mail アドレスおよびパスワードを入力し、「Serato.com」にログインします。

7 ダウンロードページの右側にある「More Downloads」の中から「Serato DJ x.x User Manual」をクリックしてください

Serato DJ のソフトウェアマニュアルのダウンロードが始まります。

保証とアフターサービス

修理に関するご質問、ご相談

裏表紙に記載の修理受付窓口、またはお買い求めの販売店にご相談ください。
CONTROL CD が消耗または破損するなどして新たに必要な場合は、以下をご参照ください。
なお、この部品は消耗部品につき、保証期間内でも保証対象外となります。

- CONTROL CD
  Pioneer DJ サポートサイト (http://pioneerdj.com/support/) の情報をご覧ください。

保証書 (別添)

保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取り、内容をよく読んで大切に保管してください。

保証期間は購入日から 1 年間です。

次のような場合には保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、性能、動作の保証をいたしません。また、故障した場合の修理についてもお受けいたしかねます。

- 本機を改造して使用した場合
- 不正使用や使用上の誤りの場合
- 他社製品や純正以外の付属品と組み合わせて使用したときに、動作異常などの原因が本機以外にあった場合。

故障、故障の修理その他にともなう営業上の機会損失 (逸失利益) は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず補償いたしかねますのでご了承ください。

補修用性能部品の最低保有期間

当社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

本書の 25ページ の「故障かな？と思ったら」をお読みいただき、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しないときには、必ず電源プラグを抜いてから、次の要領で修理を依頼してください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名：DJ ミキサー
- 型番：DJM-900SRT
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容
  「いつ、どのくらいの頻度で、どのような操作 (使用したディスクも) で、どうなる」といった詳細
- 訪問ご希望日
- 訪問先までの道順と目標 (建物、公園など)

保証期間中は

修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている弊社保証規定に基づき修理いたします。

保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

商標および登録商標について

- Pioneer および rekordbox は、パイオニア株式会社の登録商標または商標です。
- Microsoft, Windows および Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Apple、Macintosh、Mac OS は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- ASIO は Steinberg Media Technologies GmbH の商標です。
- Serato DJ は、Serato Audio Research Ltd. 社の登録商標です。

その他記載されている会社名および製品名等は、各社の登録商標または商標です。

仕様

一般

電源 ..... AC 100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力 ..... 42 W
待機時消費電力 (スタンバイ状態) ..... 0.4 W
本体質量 ..... 7.1 kg
最大外形寸法 ..... 331 mm (幅) × 107.9 mm (高さ) × 404 mm (奥行)
許容動作温度 ..... + 5 ° C ～ + 35 ° C
許容動作湿度 ..... 5 % ～ 85 % (結露のないこと)

オーディオ部

サンプリングレート ..... 96 kHz
MASTER D/A コンバーター ..... 32 bits
その他の A/D, D/A コンバーター ..... 24 bits
周波数特性
CD/LINE ..... 20 Hz ～ 20 kHz
S/N 比 (定格出力時)
PHONO ..... 88 dB
CD/LINE ..... 105 dB
MIC1, **MIC2** ..... 84 dB
全高調波歪率 (**CD/LINE** — **MASTER1**) ..... 0.005 %
基準入力レベル / 入力インピーダンス
PHONO ..... − 52 dBu/47 kΩ
CD/LINE ..... − 12 dBu/47 kΩ
MIC1, **MIC2** ..... − 52 dBu/8 kΩ
RETURN ..... − 12 dBu/47 kΩ
基準出力レベル / 負荷インピーダンス / 出力インピーダンス
MASTER1 ..... +8 dBu/10 kΩ/5 Ω 以下
MASTER2 ..... +2 dBu/10 kΩ/22 Ω 以下
REC OUT ..... − 8 dBu/10 kΩ/22 Ω 以下
BOOTH ..... +8 dBu/10 kΩ/1 kΩ 以下
SEND ..... − 12 dBu/10 kΩ/1 kΩ 以下
PHONES ..... +8.5 dBu/32 Ω/1 Ω 以下
定格出力レベル / 負荷インピーダンス
MASTER1 ..... +26 dBu/10 kΩ
MASTER2 ..... +22 dBu/10 kΩ
クロストーク (**LINE**) ..... 82 dB
チャンネルイコライザー特性
HI ..... − 26 dB ～ + 6 dB (13 kHz)
MID ..... − 26 dB ～ + 6 dB (1 kHz)
LOW ..... − 26 dB ～ + 6 dB (70 Hz)
マイクイコライザー特性
HI ..... − 12 dB ～ + 12 dB (10 kHz)
LOW ..... − 12 dB ～ + 12 dB (100 Hz)

入力 / 出力端子

PHONO 入力端子
RCA ピンジャック ..... 4 系統
CD/LINE 入力端子
RCA ピンジャック ..... 4 系統
MIC1 入力端子 (XLR/TRS)
XLR コネクター / フォーンジャック (ø 6.3 mm) ..... 1 系統
MIC2 入力端子 (TRS)
フォーンジャック (ø 6.3 mm) ..... 1 系統
RETURN 入力端子 (TS)
フォーンジャック (ø 6.3 mm) ..... 1 系統
DIGITAL IN 同軸入力端子
RCA ピンジャック ..... 4 系統
MASTER 出力端子
XLR コネクター ..... 1 系統
RCA ピンジャック ..... 1 系統
BOOTH 出力端子 (TRS)
フォーンジャック (ø 6.3 mm) ..... 1 系統
REC OUT 出力端子
RCA ピンジャック ..... 1 系統
SEND 出力端子 (TS)
フォーンジャック (ø 6.3 mm) ..... 1 系統
DIGITAL MASTER OUT 同軸出力端子
RCA ピンジャック ..... 1 系統
MIDI OUT 端子
5P DIN ..... 1 系統
PHONES 出力端子
ステレオフォーンジャック (ø 6.3 mm) ..... 1 系統
USB 端子
B タイプ ..... 1 系統
LINK 端子
LAN 端子 (100Base-TX) ..... 1 系統

- 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

＜各窓口へのお問い合わせの時のご注意＞
「0120」で始まるフリーコールおよびフリーコールは、携帯電話・PHS・一部のＩＰ電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHS・ＩＰ電話などからご利用可能ですが、通話料がかかります。
正確なご相談対応のために折り返しお電話をさせていただくことがございますので発信者番号の通知にご協力いただきますようお願いいたします。

ご相談窓口のご案内 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■家庭用オーディオ/ビジュアル商品　フリーコール 0120−944−222　　一般電話　044−572−8102

■ファックス　044−572−8103

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/
※商品についてよくあるお問い合わせ・お客様登録など

修理窓口のご案内 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

修理受付窓口

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■電話　フリーコール 0120−5−81028（ゴーパイオニア）　　一般電話　044−572−8100

■ファックス　フリーコール 0120−5−81029

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/repair/
※家庭用オーディオ/ビジュアル商品はインターネットによる修理のお申し込みを受付けております

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■電話　フリーコール 0120−5−81095　　一般電話　044−572−8107

■ファックス　フリーコール 0120−5−81096

平成25年6月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.055

ⓒ 2013パイオニア株式会社　禁無断転載

パイオニア株式会社　〒212-0031 神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号

<DRA1485-A>